

東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

幼稚園の教育

主 幹

堀 七 藏

第 二 十 六 卷 十 月 號 第 十 號

口繪・小鳥かご	吉 田 弘
直感の指導について	吉 田 弘
幼稚園の御姉上に、保育所の妹より	小 林 正 金
遊戯「冬」	土 川 五 郎
童話について	久 門 嘉 祐
手工テープに就て	山 形 金 寛
金魚草に就て	大 岩 金 寛
幼兒に聽かせる話「珊瑚のくびわ」	よ し こ
自然界の勸察	平 島 權 藏
幼稚園令の讀方	倉 橋 惣 三
觀察實施案	名古屋保育會
幼稚園雜草を圍んで	の ぎ く

帝國美術院會員
東京美術學校教授

岡田三郎助先生・丹羽禮介先生共著

三學校 家庭版

應用圖案畫集

菊判全一冊
石版十度刷
作圖千有餘
價參圓八拾錢
送料拾八錢

正則に圖案
の作法を體
得し題材を
した作圖數
百應用自在

先づ平面、立體、連續、對比、明暗、調和、象徵、色彩、以下十數項目を設けて正式に圖案作法の大意を説き、實例として題材を人物、樹花、鳥獸、蟲魚、器物、他凡百の自然界に構圖作法としては古代埃及、亞刺比亞、波斯、サラセンよりルネッサンス式ルイ式より近代のセセツション構成派等並純日本式迄多種多様に互れるを以て、隨つて其應用の範圍も頗る廣汎にてボスター、表紙、裝釘、染物、編物等行く所として可ならざるなし、本書一本に據りて克く圖案の作意を會得し、且つ製作家たり得、教育家並一般興味家に絶好の參考書と信ず、(本書は曩に學校家庭教育圖案畫集として好評を博せしが其内容はより以上廣汎なるを以て題目を改めて薦む)

岡田三郎助共著
丹羽禮介著
黑田芳生共著
上甲二郎著

學校家庭版
クレヨン畫集
描き方
兒童の描いた鑑賞畫集
批判

菊判一冊洋銀
定價金參圓八拾錢
送料拾八錢
本書は指導者に對する希望、順序と練習を敘し其模範畫數百を以てクレヨン畫の精神を明かにした。
一々學生相應の説明を附すると共に鑑賞の方法を指示した又別冊とし右畫集の教

帝國美術院會員
東京美術學校教授
岡田三郎助共著
丹羽禮介著

三學校 家庭版 教育略畫集

菊判全一冊
石版色刷八冊
作畫千有餘
價參圓八拾錢
送料拾八錢

寫真とスケツ
チを應用した
略畫の描き方

兒童の繪畫教育は略畫が簡明で最も價值に富む蓋し本書公刊の所以である國定教科書の各科に取材し、其作畫一々に就て曲線、直線の使用法、原色、補色、間色の調和、並描法を説明し猶寫真スケッチを挿入して其事實をも明示す、全科に互り具體直觀の効果を擧げ得

發行所 東京 市 牛 區 中 文 館 書 店
東 良 町 九 番 地
牛 九 番 地
市 九 番 地
區 九 番 地
中 文 館 書 店
電 話 三 三 三
牛 三 三 三
達 三 三 三
三 三 三
三 三 三
五 二 七
番 七 二

倉橋惣三序 文學士 黑瀨艶子著 新刊

母性讀本 第三篇

我子の心理

いろいろの性質を正しく養ひ方

四六判二二〇頁
口繪名畫一葉
定價一圓五十錢
送料書留十八錢

私は嘗ては皆、子供でありましたが、成長といふ自然の勢におされて行く中に、昔の樂園を忘れてしまひました。わが子よかれといふねがひは、一瞬も母の心から離れることは、ありませんが、可愛い、我子が今泳いでゐる心の流れをみつめる熱心、否自らその流れに飛び込んで我子とともに泳いで見る餘裕もないほど現代の婦人は家事に忙しいのです。しかし幸福を希ふからには、先づ、我子の心の發進に應じて、それをよく理解してその刻々の同情者、共勞者とならねばなりません。この小著はかゝる意味で、女性の立場からたえず母らしい綿密な心づかひをしなから伸びて行く子供の心を虚心にみつめた、否、或時は心の流れを子供とともに泳ぎぬけたその記録であります。兒童心理としての學問的の深き根據は背景におしやつて、出来るだけ通俗的に平易に世の中のお母様とおはなしする心持で綴つて見ました。(著者)

第一篇 お母様の童話

お話の種とお話の仕方

蘆谷 蘆村 著
定價一圓五十錢
送料書留十八錢

第二篇 こどもの音楽

樂聖の逸話と名曲の味ひ方

田邊 尚雄 著
定價一圓五十錢
送料書留十八錢

文藝生活研究會

振替 東京 一五五一

東京 銀座二丁目 張



育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長

東京女子高等師範學校長

茨木清次郎

主幹

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

贊助員

東京高師教授

巖谷秀雄

東洋大學教授

東京帝大醫科講師

乙竹岩造

東京府女子師範學校長

東京高師教授

太田孝之

東京女子高師囑託

慶應大學教授

大瀬甚太郎

帝國教育會理事

東洋幼稚園長

唐澤光德

松江高等學校長

早蕨幼稚園長

岸邊福雄

京都帝大教授

帝國教育會會長

久留島武彦

東京女子高師教授

東京高師教授

澤柳政太郎

東京女子高師教授

東京女子高師教授

佐々木秀一

東京帝大教授

東京女子高師教授

菅原教造

奈良女子高師校長

東京市學務課長

富士川游

奈良女高師附屬幼稚園主事

東京女子高師講師

藤井利譽

東京高等學校長

長崎縣師範學校長

藤五代策

東京帝大教授

東京女子高師講師

福士末之助

東京帝大教授

文庫

谷本富

女子大學長

安井哲子

文庫

吉田熊次

文庫

湯原元一

文庫

森川正雄

文庫

三田谷啓

文庫

榎山榮次

文庫

松本亦太郎

文庫

倉橋惣三

文庫

弘田長

文庫

野上俊夫

文庫

乘杉嘉壽

文庫

野口援太郎

文庫

土川五郎

文庫

龍山義亮

文庫

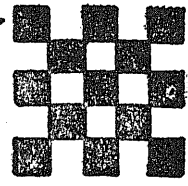
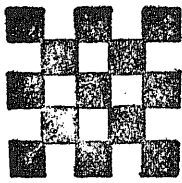
高島平三郎

文庫

田子一民

文庫

棚橋源太郎



第十號

幼稚園の教育

第二十六卷

—(次 目)—

口繪「小鳥かご」	直感の指導について	幼稚園の御姉上に保育所の妹より	遊戯「冬」	童謡について	手工テープに就て	金魚草に就て	幼兒に聽かせる話「珊瑚のくびわ」	自然界の勸察	幼稚園令の讀方	觀察實施案	幼稚園雜草を圍んで	雜 錄
吉田 弘	小林 正金	土川 五郎	久門 嘉祐	山 形 寛	大 岩 金	よ し こ	平 島 權 藏	倉 橋 惣 三	名古屋市保育會	の ぎ く		
三頁	七頁	七頁	二頁	二頁	三頁	二頁	二頁	二頁	三頁	三頁	七頁	



東京市日本橋區大傳馬町二丁目

振替東京 一二四六番
電話浪花 一二三番

内田老鶴圃

四六判特製美本函入
定價二圓五十錢
送料金十八錢
紙數五百二十餘頁

◇幼稚園保育要目

◇幼児に聴かせるお話

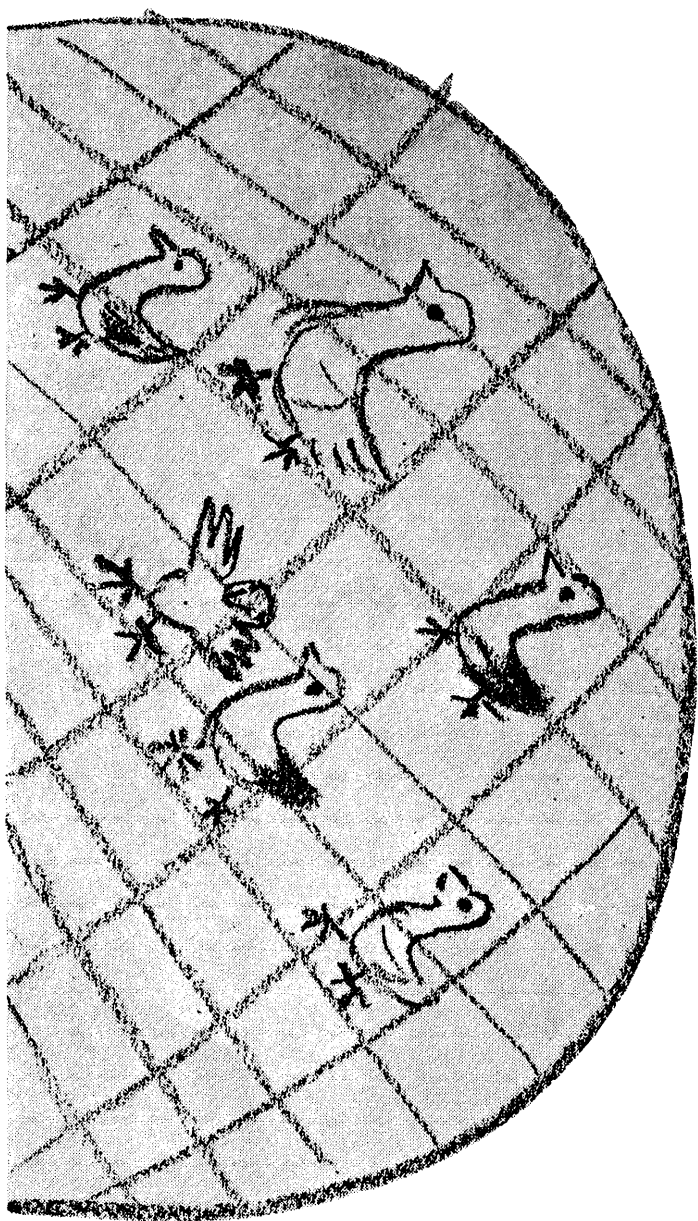
倉橋惣三先生序	萬國幼稚園協會案	倉橋惣三先生序	日本幼稚園協會編
送料十二錢	定價一圓九十錢	送料十八錢	定價三圓八十錢

▽か幼74先森り茶秋六學お尊は國大園
▽幼▽稚研笑生て△のが月百正厳の家さ丁
稚幼園究がの幼△大水來のべ月▽△の▽難
園生會は2稚園。災にた野き▽布ま爲自感不
終の活8人|一と歸▽春寒瘴疾め然本
了此活1テ▽幼△風讚にと内
了す頃新茶5ン育けるう春親一子我目次
▽幼▽詩主森の育このほろがし點ど致事
兒新稚△の義の▽煙へも來む心も△の
貴入園夏會の幼行春跡がは心嚴の日前
達園は子6稚園啓△に夏▽▽肅し光途
に兒如何園應△は夏▽外新味も△の
▽お迎なる園接主迎がちす雨へ△べ子人
さてて問任間來てみの外し一▽どの
着る處問任間來てみの外し一▽どの
まっしお▽▽△のる偉

[illegible]

附屬幼稚園兒自由畫

小鳥籠





號 十 第 育 教 の 兒 幼 卷 六 十 二 第

月 十 年 五 十 正 大

一、教育で家庭教育位重要なものではありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園教育であります。幼稚園教育の重視すべきことは天下一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園教育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園教育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたもので有ります。

直觀の指導について

東京女高師附屬小學校 吉 田 弘

一

幼兒に對しては些の經驗もなき事故、言ふ處が果して妥當であるか怪しいものであるが、小學校兒童の初學年に對する經驗からして自分の考へを述べて見たいと思ふ。

直觀に於ては觀察すること、つまり視覺を訓練することが主であらうが、それと同時に他の感官の働きを練ることも忘れてはならぬ。彼等の環境として存在する事物や自然物と彼らとを結びつけるのはこの感官の働きであつて、この感官がよく洗練されてゐる時に、彼らの心意發達が順調に運ぶのは言ふまでもないことである、尙かゝる部面のみでなく、郷土の風物、諸施設神社佛閣等に遊ばして愛郷の念を盛にするとか、事物を取扱はせることによつて、自律的の行動が出来る様に指導するとか、他と共に共同動作をなさしめて社會的陶冶の一端とするとかいふことも期待することが出来るやう。殊に自然物を愛玩して自然と共に樂しみ、自然を愛することが出来るやうになれば、粗暴とか慘虐とかいふ野蠻性を如何許り他に轉向し得ることであらう。

幼児らしき、遊びの中に自然にそうした効果が上げられる様に遊びを指導することが、幼児の直観指導としては最も當を得たものであらうと思ふ。クローバの密生せる原に遊びて、四つ葉を捜させるだけでも幼児相當の觀察指導になる。こほろぎを捕ふること、とのさまばつたを捕ふると、その時子供には如何に仔細に草原をあさることであらう、又それを捕へんとして身がまへすること、靜かに身體を動かし敏捷なる四肢の運動に移つること、そうした動きが如何許り適確なる筋肉運動練習の機會となり得ることであらう。嬉々として自然の中に楽しむことその事だけでも精神的に見て又身體的に見てその効果は大なるものがあらう。

種々の形の木の葉や草の葉を集むること、違ふ色合の小石を集めしむること、違つた種類の花を集めしむることなど單なる草原であつても、單なる林の中であつても庭先であつても、子供の遊ぶ材料は甚だ多い。

以上は自然に存在するものゝ中に遊びを見出すことであるが、種子をまかして見るとか、苗を植ゑさせるとかいふことが出來れば、自然と我との交渉は更に一段と親密なものとなり、直観に於て期待する所は一段と發揮することであらう。尤も尋常一年にしてもかなりの程度までは教師の補助を要すること故幼児になさしむる時には殆んど大部分を教師がしなければならぬかも知れぬ。しかし譬へ幼児が自身

に手を下す處は少かつたにしても、教師と共にし又仲間と共にしして自分達のものとして之を見る時には、又格別の親しみを持ち得るもの故、この點が直觀指導に於て望ましい所なのである。

三

植物の栽培といふことにも大なる効果があるが、動物の飼育といふことは相手は動物だけに一段と子供の興味を曳き、自然愛の感情を湧起することは一層のことである。子供自身に飼育し得るものも甚だ多い、こほろぎ、金魚などはその一例で、又相當の教師の補助があるならば小鳥なども飼育せしめ得るであらう。又子供ら自身に飼育せしめなくても雞、小鳥、山羊、兎、鼠、猿等を教師の方にて飼育し、餌を投げしむるだけでも動物愛護の心持をもたせることは出来るやうにならう。只この時に注意すべきことは一寸した注意で効果を一段と發揮せしめ得ることである。動物愛護といふことは自身と動物との關係を深くすることであつて、學校のものといふより自分のものといふ時に餘計親しみを感じ得るもの故飼育されたる動物を自分のものと思はせる様にすることが肝要である。それがためには各動物に子供らを振り當て、餌をやることの責任を各子供らにもたせる様なことも一手段であると思ふが、之はほんの一例であるがかうした點にも相當の注意は拂はねばならぬ。

四

小學校に於ては植物や動物に關するものを材料として直觀を指導するのみでなく、自分の家とか自分

の學校とか郷土といふものも材料に取つてゐる。之らの材料では觀察方面のことよりも愛郷の念を養ふことを主とするのであるが、觀察方面の効果も全く無視するといふわけではない。東京の如き所であると學校附近の街々を巡廻して、小間物店とか反物店とか夫々の店に如何なるものを賣つてゐるかとか、どんな看板をかくてゐるかとか、自分の郷土に對する相當の了解をなさしめ、そこに自分の郷土といふものゝ意識を鮮明にして愛郷の念を養ふことの一助にしてゐる。殊に附近の神社、佛閣、名所、公園などを巡廻して郷土といふ感じを強くし度いと考へてゐる。我々田舎に育つたものゝ腦裏に刻みつけられてゐるものは何であるか、屋敷の周りの大木の枝振り、鎮守の森の崇嚴は、眼前に聳えた親しき山姿川岸にころがる大石の形、遠く故里を離れて十數年を経過した今日でも、故郷を憶へばあり／＼と浮んで來るではないか。故郷を望んで車中にある時、第一に眼を曳くものは何であるか、子供の時から常見馴れた山の形ではないか。數年振りの歸省に路傍の木石と雖も幼き頃より見馴れたものが如何に我らの愛郷心をそゝることか。即ち郷土の特徴ある凡べてのものが、愛郷心のからくりとなるのである。この點に於て都會に生活する兒童を憂ふるものである。何處まで行つても一樣なる商店の連續と電車線路の連續である、何處に郷土としての特徴があるか。特徴なき郷土に愛郷心をつなぐことの困難なるを痛感するものである。

山川に特徴ある國の國民は愛國心強烈であるが、山川の何等の特徴なく百里行くとも千里走るも土地

の柏子何等の變化なき國の國民には愛郷心が乏しいと言はれるが、都會地に住する人々はどつちかといふと後者に近いので注意を要するのである。周圍の街、名所等を度々巡廻して郷土としての意識を顯徴にせんと努力してゐるのはそこである。都會兒と雖も注意次第では郷土意識を明確にすることが出來やうといふのがかかる材料を直觀科に於て採用してゐる理由である。三ッ兒の魂百迄といふから幼兒の直觀指導に於ても、小學校の直觀科に於ての我々の期待を了解して戴いて、かうした方面にも考慮を費して戴き度いと思ふ。

五

小學校に於て直觀科といふと多く自然物や自然現象を對象としてゐるので、屢々理科の初歩であるとして誤解されるのであるが、この點に就ては前述の如き期待をもつてゐることを了解された以上は此の上に辯明を要しないことと思ふ。尙自然物自然現象のみならず、前述の如き種々の社會的材料を取扱ふ時、それらに關する知識を覺えさせるものであると早呑み込みをする向もあるが、直觀科に於て望む處は決してそうした實質的のものでなく、まあ形式的陶冶の方面が主であつて、一口で言ふならば自然界と社會との間に子供らを人間として順當に發展させるといふのが目的であるともいへやう。

幼兒教育に經驗なき自分が單なる小學校の初年級の經驗から、當推量で述べたのであるから幾多當外得ない所があらうと思ふ。他山の石として述べて來た中の一行でもが、御參考になる處があつたら望むの喜びである。

——をばり——

幼稚園の御姉上に――保育所の妹より

東京府社會事業協會
常務幹事 小林 正 金

幼稚園は申す迄もなく紀元一千八百三十七年獨逸國ブランゲブルグにフレーベルの開設せる幼稚園に濫觴しその我が國に來りて幼兒の保姆に保育を受けるに至りしは明治八年九月にして（紀元千八百七十四年）爾來五十餘年官公立の力に依りて育まれ私設のもの生まるゝに至りたるものにて、就中官の力に依りて幼兒の愛護の必要なることを高唱せられ漸次普及發達するに至りしと雖も有産階級と最高智識階級者間の兒女の專有物たる如き状態を持續し幼稚園は社會の上方階級のみに發達するの狀態を示せるかの如き觀を呈し居りたり。

然るに本年四月勅令第七十四號は吾れ等保育所

と同等の事業を爲すに至れり。即ち吾等保育所は紀元千七百七十四年ヂヤン、フレデリック、オベルリンがベスタロツチーの計畫に従ふて學齡に達せざる細民の兒女を畫間屋内に收容し、之に組織的訓練を施す目的を以てアルサス州ワルドバツハに村落學校を設立せり。これ幼兒保育所の嚆矢にして日本に於ては最も古きものにて明治廿五年既に設立せられたるものありと雖も、其の後多きを示せしは日露戰役時及其の後にして戰止むに至りて廢止するもの多く明治四十二三年頃より都市の各地に設置を見るに至り大正の前後より一層著しく増加し最近に至りては農繁期臨時保育所各府縣に

起るに至り農村に其の數を増す趨勢を示せり。幼兒の外乳兒をなすものあれども十五六箇所を算するのみ。又官私工場に附設せらるることも漸次其の數を増加の狀況に在り、保育所は私設經營に係り官公立のなきに非らざるも、年を隔て之を經營するに至りたるものにて其の狀幼稚園とは全く顛倒せる順位を以て發達し來れり、歐洲に於て幼稚園の設立に依りて前記幼稚學校なる保育所に影響を與へし如く保育所には我國に於ては却て其の多くは乳兒を除き幼稚園保育の方法を基礎として、保育所を開設したるものにして、保育を爲す保母は皆幼稚園保育所出身者を以て之に充てられたり、然れ共保育所は幼稚園にて收容の兒童よりも幼稚なる兒童即ち三歳以下の兒童を收容し幼稚園年齢期のもとの共に之れが保育を爲し來りしものにて、其の苦心は幼稚園に倍し又其の保育時間の如き午前午後共に長く、加ふるに幼稚園に於ては

何等の顧慮を要せざる幼稚園の家庭に對し又其の父母に對し、育兒、衛生、經濟其他必要なる通俗講演講話等の集會を開催し此れを啓發し指導し向上せしむる職能のあるありて、幼稚園よりも施設すること多く大に其の趣を異にするものなり。是れ主として幼稚園は三歳以上より就學年齢期迄の兒女を保育するのみにて、然もその家庭は有産階級者又は最高智識階級者を以て對象となせしも、保育所は全く是れに反し、今回幼稚園令同施行に際し岡田文部大臣より發せられたる訓令中にある如く、所謂父母共に勞働に従事し子女に對して家庭教育を行ふこと困難なる者の多數居住せる地域に在るものにて、早朝より夕刻迄入園保育を要するものを對象とし三歳未満の幼兒をも并せ收容し、相當の設備を爲し來りしものにて其の對象とする所の家庭經濟に於て兩極端のものを比するものなり。從て其の施す所異なるものあるは免れざ

る所なりし、而して此の施設に對して主管する行政廳は内務省にして、救濟事業社會事業の一として之を取扱はれ來れるを以て、兒童保護上の一線に於ては同一の線上を馳するものなるにも拘はらず、一は教育系統の文部省に依りて支配せられ、一つは内務省救濟行政として取扱はれ來りたる關係上、幼稚園と保育所とは前述の如く對象物を同ふせるにも拘はらず、幼稚園と保育所と相共に手を携へて兒童の爲めに研究する等の事極めて稀なりし如き觀ありたり、乍然保育所は三歳以上の兒女を有し保姆は保姆傳習所を終了せし者なる故、常に足らずと雖も幼稚園を觀察研究し、又は幼兒保育聯合會の開催、幼稚園大會、幼兒愛護デーの舉ある際苟も幼兒の事に關する事項に付ては、張目飛耳其の及ばざらん事を恐れ其の進歩發達に後れざらふ事を所期し來れるものなり。然れどもその起源に於て歐米にても亦日本にても共に幼稚園

は先きに生れ、既に多くの長き經驗を有し從て多大の發達を遂げたり。此の意味に於て保育所は幼兒の事業を假りに女性にて呼ぶ事を得るとせば幼稚園は姉にて保育所は妹なりと言ふを得べし。然も姉は上流階級を朋とし妹は同情すべき少額收入者階級を友としたり。新幼稚園令に依りて統合せられ同一の管轄廳の手に收められたるを以て、姉妹の區別を要せざるに至れる觀を呈せりと雖も、對象物たる幼兒の種類別を認むると共にその兩親の生活狀態を異にする限り、自ら區別を生じ尙は姉妹の關係を保つべしと觀察するを至當とすべき歟救濟的意味を有せるものと有せざるものとの差違は止むを得ざるの區別たらざるを得べきを以てなり。假令その經營上要する所の經常費の收入方法に於て、同一の方法に依ると雖、尙ほ永久の區別を免れざるべし。現今官公私各教育上の區別と上流、下流、有産、無産の階級を生じ居ると雖も

希くは將來は同一國家の愛兒なれば現今の小學校と同じく同一の待遇と設備の下に處遇せられ、その本然の使命たる教育保育の目的たる開發の、充分達成せらるゝに至らん事を希ふて止まざるものなり。

殊に上流階級の幼兒は幼稚園に下流階級の幼稚園は保育所たる幼稚園に收容せられ、その中間たる所謂社會の中堅を爲す最も樞要の位置を有する中流階級の幼稚園は何れの幼稚園にも行く能はざるが如き現狀を打破し、幾十萬人の此等の幼兒を速かに救済し、幼稚園の大普及化の行はれん事を、殊に聲を大にして叫び必らず實行せられん事を曉望して止まざるものなり。幼稚園の姉上よ此は兒童事業中の一大事業として此れが顯現に盡力せられん事を祈ると共に、妹たる保育所には三歳未満の幼兒を有することを深く心に留められ、其の最も適當なる保育所に就て即ち兒童學、心理學、生理學、衛生學、教育學、兒科學、音樂、遊

戲其他に於て如何にして宜しきや一つに指導と提携と敎示とを客まれざらん事を切に希望して止まざる者なり。

今大正十二年内務省社會局に於て調査せし保育事業數、保育狀況、保育兒、年齡、保育所の規模の大小等に付ての各表を左に掲載したれば其の大勢を知られん事を望む。而して大震災に際し東京の保育所は大半焼失の厄に逢ひたれ共、復興せざりしもの殆んどなく皆復興したる外保育事業は東京府管内即ち市部郡部を併せて六十を算するに至れり。而して復興せしものゝ内、曩に政府が東京府廳を経て保育事業を委託せる二葉保育園外二十九團體に就て、最近東京府に於て調査せる幼兒の年齡及び保姆九十九名に就ての資格等を得たるに依り并せ掲記して參考として貴覽に供す。

全國道府縣別保育所表

大正十二年十二月內務省社會局調查

道府縣名	員數	道府縣名	員數	道府縣名	員數
北海道	△一	群馬	二	滋賀	一
東京都	△一九	千葉	一	岐阜	△一四
大阪府	九	茨城	一	長野	一
神奈川	△一三	栃木	一	宮城	三
兵庫	四	奈良	一	福島	二
長崎	△一三	三重	四	岩手	一
新潟	二	愛知	△一五	青森	二
埼玉	五	山梨	一	山形	一
福岡	一	愛媛	一	秋田	一
石川	二	高知	一		

富山	鳥取	島根	岡山	廣島	山口	和歌山	徳島	香川
1	1	1	2	2	2	3	1	1
福岡	大分	佐賀	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄	計	
5	1	1	1	1	2	1	一二三	

△印ハ兼管 内兼管六

右表合計百二十三中ヨリ兼管六ヲ除キ事業總數百十七ニシテ之ニ要セシ總經費二十九萬五千二百八十一圓從事職員數五百八十六人收容保育兒童數壹萬參千四十九人ナリ今其狀況ヲ見ルニ左表ノ如シ。

保 育 状 況		状 況 性 別		入 所	
男	女	計	前年度越員	本年新入	
三、二一〇	三、〇六八	六、二七八	三、二一〇	三、五二八	
三、二四三	六、七七一				

計

六、七三八

六、三一一

一三、〇四九

期間滿了

一、一三九

一、〇七二

二、二一一

退所事故

二、二五二

一、九八三

四、二三五

計

三、三九一

三、〇五五

六、四四六

現在兒童

三、三四七

三、二五六

六、六〇三

一ヶ年間延人員

六三〇、六三二

五八五、二九六

一、二一五、九二八

延人員一日平均

一、七二七、七

一、六〇三、五

三、三三一、二

保育兒年齡

年齡 性別

男

女

計

一歲未滿

三六

三三

六九

一歲以上三歲未滿

三七九

四〇六

七八五

三歲以上六歲未滿

二、〇五六

一、九六七

四、〇二三

六歲以上

八七六

八五〇

一、七二六

計

三、三四七

三、二五六

六、六〇三

保育所の規模

收容人員	個所	收容人員	個所
百五十人以上	二三	百人以上百五十人以下	二九
五十人以上百人以下	四七	三十人以上五十人以下	一〇
十人以上三十人以下	四	十人以下	一
不詳	三	計	一一七

委託託兒所幼兒年令調査

大正十五年東京府調

年齢別性	幼兒數	男女計	%	備考
三 歲 男	一一	三九	一、五五	一、幼兒男一、二一五人合計二、五一五人
三 歲 女	一八			女一、三〇〇人合計二、五一五人
四 歲 男	五五	一一	四、四一	一ヶ所幼兒平均男四三人四分
四 歲 女	五七			女四六人四分計八九人八分
五 歲 男	一一	二五五	一〇、一四	(委任保育事業二葉保育園外二十七ヶ所報告ニ依ル)
五 歲 女	二七			
六 歲 男	二九	五七六	二二、九四	二、現在託兒所數六二ヶ所
六 歲 女	九八			
七 歲 男	三九	八三九	三三、三六	三、幼兒數男二、六九一人
七 歲 女	四七			女二、八七七人

八	九	十	十	合
歲	歲	歲	歲	計
女	男	女	男	女
男	女	男	女	男
三	一	一	一	一
二	一	一	一	一
七	三	四	三	五
六	一	一	一	〇
二	〇	〇	〇	〇
一	〇	〇	〇	〇

六六三 二六、三六 合計 五、五六八人

二四 〇、九五 (第一項調査ヨリ推定セルモノ實際ハ是ヨリ)

四 〇、一六 モ多少數ヲ減スルナラン)

四 〇、一六 四、保姆數二〇四名

二、五一五 一〇〇、〇〇 一ヶ所平均保姆數三人強

保姆數二〇四名

(委任保育事業ニ従事セル保姆調)

五、保姆一人ノ擔當スル幼兒二五人四分

委任託兒所保姆調

大正十五年七月東京府調査

一、從來ノ免許狀ヲ有スル者(六九)

高女ヲ卒業セル者 五四名 (五五、五五)
 (専門學校卒業者一名ヲ含ム)
 傳習所ヲ卒業セル者 一三名 (一三、一三)
 檢定ニ依ル者 二名 (二、〇二)

専門學校ヲ卒業セル者 五名 (五、〇五)

一、從來免許狀ヲ有セサル者(二八) 高等女學校ヲ卒業セル者七名 (七・〇七)

其他ノ者 一六名 (一六・一六)

一、不詳 二名 (二・〇二)

合計 九九名(一〇〇・〇〇)

1、政府ノ委託ニヨリ東京府ヲ通ジテ委託シタル託兒所従事者二葉保育園外二十九團體。

2、現下東京府管内ニ於ケル託兒所ハ二葉保育園外六十二個所ニテ保姆ノ推定數二〇四名ナリ。



黒瀬艶子氏著『我子の心理』

——母性讀本、第三卷——

最近出版になりました。「初めから終りまで、世のお母様方と御一緒に目のまへに「お母様」と頼りする紅顔の子供を思ひ浮べて筆とりました。だけに、その取り扱ひ方に於て非常に味ふべき本でございます。本書に寄せられた倉橋先生の序文の中に「……速かに一人でも多くの親の手に行きて、我子の愛を誤りながらしむることを、切に希望して止まない」とございますが、獨り親のみでなく幼稚園の先生方にも又はお姉様方にも叔母様方にも是非一讀を御勧めいたします。

東京京橋區尾張町二
振替東京五一五五一

文化生活研究會發行

定價一圓五十錢

冬

土 川 五 郎 振

(一)こんこんゆきふれ……………兩手を體前にて上下へ交互に動かして足踏をなす(四回)

風……………掌を下にし兩手を并べて左方へ平らに流す左足にて足踏す。

もふ……………右へ流す右足にて足踏す。

け……………兩手を左方へ流すと共に左足にて強く足踏して右足を右方へ伸ばし顔を右に向ける。

ぼくらは……………右手を右へ伸ばし更に肱を曲げて顔を右方に向け右食指にて自分の鼻を指す。

雪の子……………左手を左方へ伸ばし肱を曲げて顔を左方に向け左食指にて前と同じく自分の鼻を指す。

さむく……………兩肱を左右に張り兩拳を胸に取る。

ない……………一跳躍兩足を左右に開くとき兩拳を兩側下方に下ろし少しく左右に開く。

(二)ヒューヒュー……………左足一步を前に兩手を體前方より上方へ(上に行くに従つて左右に開く

様に)掌を上に向く様に早く開く。

風吹け……………右足一步前に前と同じく右方に行ふ。

雪もふれ……………右手より交互に上下に動かしつゝ足蹈をなして後退す。

ほくらは……………右足一步前に右脇を曲げ右上を見て右肩と右脇を右に出す。

風の子……………左足一步前に左脇を曲げ脇と左肩とを左に出す。

つめたく……………兩拳を胸に取る(脇を張りて)

ない……………兩拳を開きつゝ斜右左上方にあぐ。

(三)あられの……………左足一步前に兩手の脈所を向き合せ兩掌を上に向け指先を左右に開きて左

上にあぐ。

寶玉……………右足一步前に兩手を右上に前と同じ方法にて上ぐ。

雪の……………右足を一步後ろへ兩手を下へ左右に柔かに開く「の」にて兩手を胸前にまと

める。

花……………左足一步後ろへ前と同じく兩手を左右下に開く。

こどもの……………全生手をつなぎ顔を右に向け上體を少しく右に傾けてつなぎたる手を

三回振る。

世界に……………同じく顔を左に向け上體を左方に傾けて手を三回振る。

冬は……………體前にて拍手一回右足を大きく右へ一步上體を右に傾く。

ない……………顔を上に向け左手は左足に添はしめ右手を右上方にあく（肱を曲ぐるこ
なく左右の手が斜に一直線内に入る如くす）

注意第一の歌「くらは」奇數生は顔を右へ向け右手にて指し偶數生は左へ左手にてさす「雪の子」
其反對の運動をなして他生と顔を向き合す。

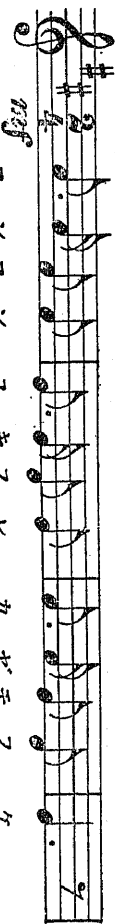
第三の歌「こどもの」にて奇偶兩生顔を向き合せて手を振り「せかいに」他生と向き合せて手を
振る。

以上の方法に組合すを本體とす。

冬

弘田龍太郎曲

活發



コソコソ
ヒューー
アラレノ
ユカ
キセウ
フケ
カ
ゼモ
フ
ケ
ナ



ボクラハユキノコサムクナ
ぼくらはユキノコサムクナ
コボモロハユキノコサムクナ
イ
ない

冬はない。
子供の世界に

雪の花
霰の寶玉

つめたくない。
ぼくらは風の子

雪もふれ

ヒューヒュー風吹け

さむくない。

ぼくらは雪の子

風も吹け

こんこん雪ふれ

冬

相馬御風

童謡について

東洋幼稚園牛込分園長
童謡と遊戲と仕舞の研究會主幹

久門 嘉 祐

◎童謡は幼兒の生活なり

抑も童謡は生來子供の心に織り込まれて居るものであります。之に依つて生活は美化され豊富にされて居るものであります。童謡は即ち子供の生活なりと言ふも敢て過言ではないと思ふのであります。従つて幼稚園に於て童謡を教ふるに當りては先づ幼兒の生活といふことを基礎として、其上に寧ろ自然に唱歌音樂を建設すべきであらうと思ふのであります。

◎聲は心の直接表現なり

童謡になるものは勿論であります。さて其の一人一人の音聲は天恵のもので其の本質に至つては

人爲的には如何ともすることの出来ぬものであります。一人一人顔の形が固定して居る如く其人の聲として固定して居ります。彼の盲人が一聲さいたら誰といふことを決して間違ふものではありません。八年も十年も曾はなかつた人に突然會つて一聲聞いて直におゝ誰さんまことにお久しう十年振りでしたな、などと人を驚かせたといふ話はいくらもあります。それ程に其人の聲は筋の立つた動かないものであります。如斯其人々の聲の本體は一生固定されて居るようであります。けれども其聲の尖端枝葉に至つては變化自由であります。

其時々の境遇心情に依つて直に變化するものであります。即ち聲は心と直通である聲は心の一番手つ取早い表現であります。彼の吃驚した場合に思はず知らず「アツ」呼ぶが如きであります、已ての心的狀態は反射的に微妙に聲に表現さるゝものであります。

◎習慣性

人の天から恵まれた心の本質に至つては決して動くものではないのであるが其心の尖端は境遇に依つて變化をするものであります。而して其心の傾向は刹那々に消えてしまふものもあり又其傾向が長く持續するものもあります。其の持續するものは習慣性となつて性格の上に固着する様になるのであらうと思ひます。性の善惡説は暫く措いて、長い間生活する間に悪い性格も出来れば又善い性格も出来る譯であります。同時にそれに準じて或種の聲も固定される事になるのであります。

◎性格の童謠化

廣い意味に於て悪い性格から出る聲は皆童謠音樂には不適當な聲であります。此等の聲に對しては一々童謠訓練を必要とするのであります。即ち聲の訓練によつて先づ悪いといふ心の進行の眞先に對して一頓挫を與へるのであります。そうして一方に於て幼兒の生活を訓練して品性の陶冶に及ぼすのであります。恰も醫家が病原に對して注射其他の治術を以て先づ進みつゝある病者の眞先を頓挫せしめて置いて快復術を施すのと同様であります。聲の童謠化及生活の童謠化を同時に行ふを假に性格の童謠化と名付けて置きます。

◎童謠化を施すべき聲の種類

微に入り細に互るときは限りのないことでありますが、今其の童謠化を施すべき聲の種類の大體を列舉せんに

◎太い聲◎細い聲◎大きな聲◎小さな聲◎汚い聲

○下品な聲○調子外の聲○鼻にかゝる聲○痰にかゝる聲○喉につかへる聲○騒がしい聲○金切聲○どら聲○垢つた聲○高い聲○低い聲○巾の廣い聲○狭い聲○散る聲○荒い聲○強い聲○弱い聲○不透明な聲○鹽枯聲○突き出すやうな聲○惡らしい聲○黄色い聲○切れ〴〵の聲○ませた聲○あまつたれる聲○粗漏な聲○角ばった聲○力のない聲○泣き聲

等枚舉に違がないのでありますが、而して之等音樂上から言ふて缺陷の聲は只單に聲ばかりでなく其根には其性格がくつゝいて居ることを思はねばならぬのであります。

○我が幼稚園で所謂性格の童謡を施したる特殊な一二例（特別亂暴な幼兒の一例）

それは或學者の第四の男のお子で當年七歳の武雄（假名）さん體格も上等頭腦もよし非常な元氣で元氣を通り越した亂暴者として家庭でも非常に心

配される程でありました。勿論幼稚園第一の惡戯者でありました、従つて言語音聲も非常に亂暴で到底謠になんぞまとまるものではない只亂暴に怒鳴るばかりである唱歌なんぞは大嫌といふのであります。

○此の亂暴幼兒に對する特別方法

武雄さんお早うと玄關へ走り上るとすぐに武雄さんお早うお唱歌をうたひませうとピアノの側へ氣嫌をとつて連れて行き先生と一しよにうたはせる、不相變亂暴で二三度も怒鳴ればもうピアノの側には居られないお庭へ飛び降り角力鬼ごっこ駆競喧嘩といふ實に目のまはるやうな活動それだけならまだよいが片つばしから惡戯をして歩く人を突き飛ばす、翫具を引つたくる、物を投げる、人を泣かす、力があり、智慧はあり所謂餓鬼大將であり勿論毎日お守法の最善を盡して活動上の指導はして居るのであるが、又一日中幾度となく好機

會を捕へてはピアノの側へ連れて行く、そうして直接に聲を少しづつ訓練し又一方には鬼ごつこの中へ「チュンチュク雀の鬼ごっこ」と謠を入れ、プランコに謠を入れ、駈くらに謠を入れるといふ風に、盛んに活動の童謡化を施したのである、それが五ヶ月も六ヶ月もずつとつづいた今日では、同人は不相變幼稚園隨一の元氣者であるが實に於ては大變に變化して來た、即凡ての言語動作に圓滿が出來、調節が出來、美味情味が出來た、同時に童謡も道に入つてもう獨唱でも出來るやうになつた。又家庭で様子を聞いて見ると武雄はお蔭様で比頃は、元氣な不相變元氣であるが前のやうな惡らしいやうな惡戯はせぬやうになり可愛い子になりましたとのことである。

◎意氣地のない子供の一例

千代子さんは六つ、一人っ子の例としてあまつたれで内張のくせに外意氣地なし、幼稚園へ來て

もお附の女中の手から離れずいつも隅っこに小さくなつてちつとして居るさながら幼稚園のお人形でした。それでお唱歌は好きといふのでした。

◎此の幼児に對する方法

特に女中附のまゝピアノの側に連れて行き其の幼兒の知つて居る唱歌を先生がピアノを弾いてあげると小さな意氣地のない聲で謠ふのである。毎日々々幾度もくくこうして謠はせる、段々に外の子供も呼んで一しよに謠はせる、それから一團の子供で歌遊歌舞遊戯をさせる、段々馴れて來た所で童謡鬼ごっこ童謡スベリ臺童謡プランコ童謡砂遊といふ風に、生活の童謡化を以て終始段々に活動も出氣、氣分も開けて來て今一寸で一人前の幼兒として活動するやうになつた。

——終——

手工テープに就て

東京女高師訓導 山 形 寛

一 手工テープとは如何なるものか

「手工テープ」と銘打った手工材料が數ヶ月以前から市場に出た。そして小學校や幼稚園などでぼつ／＼之を實際に試みられる様になつて來た。又玩具の一種として、玩具店や百貨店などで賣つて居る様にもなつて來た。

私がこの材料を實際兒童に使はせて見たのは、ほんの二三回に過ぎないのであるから、その結果から見た確然たる價值判斷をすることは今の處出來ないけれども、單にその材料を見た所に就て、少しく感じた所を述べ、併せて幼稚園に於ても之を實際に研究して見られるよう御すすめたいの

である。

先づ「手工テープ」とは如何なるものであるかに就て述べる必要があらうと思ふ。「手工テープ」とは各種の色紙の裏に一種の粘着材料を塗り、之を幅一分五厘位から二分、三分……等各種に切り取り長さ約五尺位のをボール紙の裏に巻いてあるものである。而して裏面に塗られてある粘着材料は絆創膏に塗つてあるものと同質のものである。故に「手工テープ」と云ふのは色紙で作つた絆創膏だと思へば大差ない。而して之を製造する商會は絆創膏の製造が本業ださうである。

「手工テープ」も最初の試みとして作られたも

のを見た時は、色もよくなく、紙質點に於ても疑問を持つて居つたが近來は漸次改良せられて、紙質も厚く且つ兒童の力で容易に思ふ通りに切るこゝとが出来ようになり、色の數も増して二十色位作られて居り、且つ色そのものも華麗なものや濫いもの等種々あつて使用上、だいぶん都合がよくなつて來た。尙ほこの方面は實際使用の結果から適當の注文をすれば益々改良されて行くことと思ふ。

二 手工テープの用途及長所

「手工テープ」の用途としては種々あらうけれども、目下試みられて居るのは、テープをそのまま適當な長さに切つて臺紙に貼り、梯子、門、家ぶらんこ、鳥居等の如き形を表現する方法と、テープ長短色々に切りそれを臺紙に貼つて、從來からやつて居た「むしり繪」又は自在切抜の如き表現をなすことと、畫用紙、羅紗紙、薄手のボール紙

等で諸種の立體的構成をなす場合の接合材料に用ふる場合と、それ等の立體的裝飾に用ふる場合とある。

第一の場合即ち紙帶を以てする表現をなすには、普通の色紙の如く、之を紙帶狀に裁ち切るの要なく、又既に粘着材料がついて居るのであるから、糊をつける世話がいらない、且つ普通の糊を用ふる場合には、幼稚園や小學校の低學年に於ては、紙や机其他をよごすことが多く、且つ一度つけた糊が乾いたり何かして、なか／＼うまく行かぬものであるけれども、手工テープに於ては、さう云ふ缺點がない、のみならず臺紙に質の硬く且つや／＼滑なものを用ふる時は、一度貼つて見て位置が面白くなかつたり曲つたり、する時は、はがして再び貼りなほしても、臺紙や他の部分をよごすことがない。かゝる點から見て、表現そのものを目的とする場合には、普通の色紙よりも數段優

れて居ると云はなければいけない。然し、小刀や
鋏で紙を裁つ練習や、糊の使用練習をさせる手段
として紙帯による表現をなさしめる様な場合には
手工テープは全く目的に副はないことになる。

第二の場合、即ち自在切抜的の表現を爲すには、
幅の比較的狭いテープになつて居るのであるか
ら、廣い形を表はしたり、廣い面積を貼りつぶし
たりするには、普通の色紙の如く一度では行かな
い。幅の狭いものを貼りならべなければならぬ
缺點がある。然しその他の條件に於ては普通の色
紙に比し數段の便宜がある。その第一の點は普通
の色紙の場合には先づ思ふ形に色紙を切つてか
ら、糊をつけ、それを貼り、更に他の形を切り、
又貼ると云ふように、幾度か糊を用ひたり、鋏を
用ひたりしなければならぬ。その間には方々へ
糊がついて周圍をよごしもするし、又糊をつける
と云ふ仕事は、大人から見れば簡單なことのよう

に見えるけれども、小さい兒童にとつては相當困
難な仕事であり、心を勞することが多いものであ
るから、この仕事の中にはいることは、形や色の
表現に對する心的活動の上に、直接的でない仕事
がはいることになり、そこに幾分の空虚が生じ、
ために仕事に對する興味と熱心とが幾分づゝさま
されることが多い。然るに手工テープに於ては、
この糊をつけると云ふ作業が全部省略されるので
あるから、「かう云ふ形で」「かふ云ふ色に」と考
へた時に直ちにそれを貼りつけることが出来るの
であるから、心的活動の上に異分子がはいらぬこ
とになり、仕事に對する興味を増し、熱を強める
上に非常に便宜が多い。次にテープは或る形を表
はさうと思ふ時に、テープの一端から、その部分
に貼りつけ、ここ迄でよいと云ふ所で貼つた方を
左手の指頭で壓へて、引き切れば思ふ通りの形が
一度で出来、しかもそれが既に貼られて居ること

になる。而して若しその結果が面白くなかつた場合にははがして貼りなほすことも出来る、以上の如き諸點から見て、自在切拔の表現の場合に於て便宜な點が相當多いのである。

第三の場合、即ち畫用紙羅紗紙薄手ボール紙等の接合材料として用ふるには、幅四五分位に作つたものを用ふるのであるが、之は非常に便利である。畫用紙や羅紗紙による立體的の構成の場合には、普通その接合すべき部分に糊代を残して置いて接合するのであるけれども、製作すべきものの形によつては、展開圖を畫いた時に、どこに糊代を置けばよいかは、小さい兒童にはやゝ難解に屬するものであるが、こんな場合に所要の面の形をそれ／＼別々に切つて作り、然る後に他の接合材料によつて接合する時は所謂展開圖と云ふものを畫かないでもよいのであるから、製作がよほど理解し易くなる。又ボール紙の場合は、例へて糊代を

残して置いても、はね返つたりしてなかく固着し難いものであるから、他の材料を以て接合する方が都合がよい。私はこれ迄に斯かる場合の接合材料に、水彩畫を畫く時の水張に用ふるゴムペーパーと稱する丈夫な日本紙にアラビアゴムを引いて幅五分位に切つたものを巻いてあるものを用ひて便利を感じて居つたが、この「手工テープ」はそれよりも一層便利である。而してボール紙の如き、質の比較的軟い紙に於ては簡單にしかも強く貼りつかつて、一度貼はつたものをはがせば、臺になるボール紙の方がついてはがれて來る程強くつき、端の方がはがれて來る様なことはない。而してこのテープには種々の色があるから、あの黄土色をしたボール紙や、茶褐色をしたボール紙の地の色を生かして行くにも便利である。(ボール紙の色は相當よい色であるから無意に上貼をしてかくしてしまはぬがよい。)

第四の場合即ち、前記の如くして製作した各種の立體の裝飾用として用ふることは、これ又用途が廣い。而して既に幅の狭い帶狀になつて居るのであるから、そのまゝ簡單にして且つ効果の多い裝飾をなすに甚だ都合がよく、この方面の用途は研究すれば可なり廣いことと思はれる。

三 手工テープの用途に對する所見

以上で「手工テープ」の用途及び長所に就て大體述べた心算であるが、現今最も多く用ひられて居る方面は、第二の方面即ち自在的切抜表現の方面である。製造者に於ても、この方面の價值を重く見種々の標本等を作つて宣傳して居る様であるが、私の考へる所によれば、勿論かゝ方面に用ひてよいとは思ふが、然しそれは、極めて單純にしても幼稚園か小學校の低學年に於て若干採用される程度に止め、普通の繪で狙つて居るやうに、物體の丸味をつけて、明暗をも表現しようと思ひた

り、えらく複雑なものを表現しようとする如きは少しく横道にそれたことだと思ふ。さう云ふ表現ならば、むしろ圖畫の描寫材料として研究を積まれたものによる方が便利である。勿論畫いたものと紙で貼つたものとは、出來たものゝ味はひの上には差があることは認めるけれども、しかもその味はひに溺るべきものではない。繪畫的表現には、それに適する他の材料のあることを忘れてはならない。

前項に於ては用途として述べなかつたが、小さい兒童等が繪畫的表現をなす場合の補助材料としてクレイヨン其他と混用することはやらせてよい。小學校に於ても綜合的學習と云ふ様なことがよいとされて來た今日に於ても、最もその性質の接近して居る圖畫と手工との綜合的表現を認むることは當然であるから、從來とても色紙とクレイヨンとの併用と云ふやうなことは行はれて居つた

のであるが、その色紙の代りにテープを用ふることは相當便利である。

用途の第三、第四の方面は、大に研究すべき價值ある方面である。私はむしろこの方面に多くの意義を發見することが出來ると思ふ。而してかう云ふ方面では幼稚園から、小學校の四學年位まで紙を主とする工作の補助材料（テープもやはり紙ではあるが）最も必要なものとなつて來はせぬかと思ふ。特に小學校の三四年程度に於けるボール

三〇

紙を主とする工作に對し、あきたらず思つて居つた私にとつては、この材料は非常によい刺激を與へてくれた様に思ふ。このことに就て少しく述べたいのであるが、幼稚園に關する部分が少いから止めて置く。

手工テープに就ては尙ほ實際製作例を擧げて述べたい部分もあるけれども、それ等は、又の機会にゆすることにする。



金魚草に就いて

東京女高師教諭

大 岩 金

栽培方法が極めて容易で花は充分賞玩する価値がありまして秋に播種して春開花する金魚草に就きまして簡単に申し述べたいと思ひます。

尙一言附け加へて申し上げたいのは是等の草花は比較的早春から開花させる事が出来ますので子供が春の日長に御菓子をねだる時などに子供の心を汲んで母親自らが是等の花をつんでその時の御菓子の代用と申すも妙でありますが長閑な春の若葉の蔭に薙を敷き是等の花を以つて、おまゝごとなど致させますれば、もはや前のお菓子のことなど打忘れて大層喜んで遊ばせることが出来ると云

ふ、只花の美を賞する外にも利用の出来るもの、一つであります。

金魚草は栽培の仕方によりまして、多年性とも二年性ともなるものであります。葉は長橢圓形、莖は喬性、中性、矯性等ありまして六七寸から二尺位に成長致します。花の一房としての形は穂状で花一個は筒状であつてその開花したものは丁度金魚が口を開いたやうで誠に趣のある花で爲に此の名があるのだとも云はれて居ります。そこで花の色には白、黄、紅、深赤、淡黄、絞り等種々あります。それ故金魚草一種類を植ゑ込みまして

色彩上變化のある美しい花壇を造る事が出来ます

作り方

一、繁殖法

イ、實生法

一般にはこの實生法によりまして繁殖致します。

A、秋 蒔

普通は秋蒔きに致します。種子は黒褐色で極めて小粒でありますから充分注意して蒔く必要があります。(蒔方に就ては前に述べてありますから略します。)

B、春 蒔

全然霜除の設備の出来ない場合又は簡単な霜除位では越冬し難いやうな場所又は花期を遅らしたい時などには春蒔にしますのであります。

ロ、挿木法

時には充實した新芽をつんで挿木することもあります。只今は詳述することを略します。

ハ、古株で越冬させること。

是は開花後莖を二三寸に切りましてその株を適當な場所に埋めて冬は霜除をして霜害を受けないやうに保護して翌春になつてから植ゑ出すのであります。

二、播種後の管理

發芽しまして本葉が二三枚出ました時に第一回の移植を致します。事は一般の草花におけると同様であります。そして秋蒔きであります。霜の降る頃までには相等に成長して莖も丈夫なものに育てゝゆきます。そして降霜の頃までに三四寸も伸びて本葉もかなり澤山出ましたら三四枚を残して摘心致します。摘心致しますと葉腋から枝が出てこゝんもりと茂つた株になるのであります。そして降霜の頃になりましたならば霜除をしてやります。

秋蒔に致しましても降霜の頃になりまして大面積に渡り霜除の出来難い場合には苗床で越冬させ

まして翌春霜がおりなくなりまして、思ふ場所に植ゑ出す事もありますが、此の方法は苗を徒長させましたり、密植のため發育不完全な状態を示す事などありまして好ましくありませんから、此の方法をとります場合にはなるべく薄く蒔き且つ發芽後あまり密生して居る所は間引きまして空氣の流通をよくしてやる様に注意するのであります。

次に春蒔に致しましたものも、發芽後の管理は秋蒔のそれと略同様でありますがこの場合には勿論霜除をする心配はありません。又成長が速で開花する迄に要する日數も割合に短かくやがて暑氣になりますので充分繁茂をとげないうちに開花致します爲に秋蒔に比べて見おとりのする事が多いのであります。

次に肥料の事でありますが是は一般の草花と同様でよいのであります。即ち元肥としましては油粕に過磷酸石灰を加へたものを少量施しまして補

肥と致しまして人糞尿又は油粕のよく腐熟致しましたものを薄めて時々施します。

病蟲害、是と云ふ病蟲害は殆ど發見されないやうでありまして至極手間のかゝらないものであります。

三 開 花

前年からの古株が一番早く開花致します即ち五月始めから咲き初めます。次に秋蒔のもので最後に春蒔が開花すると云ふ順序であります。

そして一株としての咲く順序は中央の莖の蕾から最初に咲き順次側方の葉腋から出た枝の蕾に咲き及ぶのであります。それ故に中央の花が咲き終りましたらその部分を切りとつておきますとその下部の葉腋から出た枝の花が咲きます故一株の金魚草で非常に長時間の開花を見る事が出来ます。その上前に述べましたやうに播種時を違へたり古株で越冬させる事などによりまして開花の時期が

異なりますから夫等をよく鹽梅致しますれば五月頃から十月頃までも絶えず花を賞玩する事が出来ます。

四 種子の採り方

花が終りますと袋のやうな果實が出来ます。始めのうちは青いのですが成熟致しますと暗褐色となりやがて袋の上方に穴があきます。その内部は三室に分れて居ります。長い花軸に澤山ついて居りますからそれを軸のまゝ横に倒さないやうに切り取り之を逆にして振りますれば随分澤山の種子がとれますから一株ありますればかなりの大面に蒔く事が出来ます。それ故に家庭で始終賞玩しやうとする時には各種の色を一株づゝ距離をおいた他の場所に植ゑておくとか、多い中に目ざはりにならないやうな所に印をつけておいてその分丈結實させるとかして採種し他は花の終り次第摘み取つて又次の花を咲かせるのに勢力を弱めないやう

にしてやればよいのであります。

又學校、幼稚園、その他夏休みのあるやうな所で栽培するのでありますならばこの期を利用して休みの間に結實したものを採種すればよいかと思ひます。それを袋に入れて名稱をつけ他と混交しないやうに又鼠などにおそはれる事のないやうに保存しておいて來る秋を待つて前同様の方法で蒔くのであります。この様に取扱ひますことはいづれの種子も同様であります。

特徴及び利用

先づ主なる特徴を列舉致しまして次に其の特徴に對する利用を少し述べて見たいと思ひます。

- 一、栽培の容易なこと
- 二、開花期間の長いこと
- 三、花の色に種々あること
- 四、花の形に趣のあること
- 一、美しく咲き誇つてゐる金魚草に接すると同

時に栽培の容易であると云ふ事を知りきしたならば誰も自ら培つてみたい氣持になるだらうと思ひます。或は花壇に或は鉢に或は切花用としていづれに致しましてもよいものであります。

二、開花期間の長いと云ふことは花壇などに植ゑ込みます場合には望ましいのであります。春に植ゑ込んでおきますればその後はさしたる手入も要しませず又度々他のものと植ゑ替へます事もしないで絶えず花を見ることが出來ると云ふ事でもあります。そして又株そのものを更新すると云ふ事でもあります。即ち花壇で相當の期間觀賞した後に切花として刈り取り他に利用する時はその切り取りました株から新芽を生じ次第に成長しまして再び以前に劣らない花壇が出現することであります。それでその切り取つた花は或は床の間を飾り或は食卓を賑はし又子供等はその花で楽しい日を送ることも出來ませう。

三、花の色の種類が多いと云ふ事は毛氈花壇などを造ります場合には必要なことであります。即ち金魚草一種類で各種類の色を配合よく取り合えます時には他の各種類の草花を取り合せて造りました花壇よりもあつさりと致しまして却つてゆかしい感じのあらはれるものであります。又此金魚草には草丈に喬性、中性、矮性の性質を持つたものがありますから是等の特性をも前者に加味してボーター或は普通の花壇等を造る事も出來る譯であります。依つて金魚草は一般に花壇用草花として利用して最も望ましく且つ利用價值の大なるものと信じます。

四、花の形に趣のあると申しますことは前述致しましたやうに開花致しましたものが金魚が口を開いた様な形をして居りますからでありませう。そこで是を子供のおまゝごとゝして用ひます時に都合のよい事があるのであります。それは花の色

が種々ありますので例へば赤い花の浸出液を造り
白い花に盛ると云つた様な具合に種々な色の花の
浸出液を種々な花に配合よく盛り可愛い、お客様
の御馳走として進めます。その場合盛る花はお碗
となりお茶碗となるのであります。然し此際お碗
の臺として粘土のお團子を造り上の中央に穴をあ

けて挿し込み倒れるのを防ぎます。或は種々の色
の水を賣る製造及販賣者となり買ふ買手となる事
も出来ますしこのデリケートなおまゝごとはやが
て色の名を知り色の配合の美を知るでありませ
う。

附 記

秋に播種する草花の種類

花 名	播種法	開花期	花 色	草 丈	性 質
アネモネ	鉢、床	三月五 月 第一回	紅、紫	五—八 寸	球根 二(多)年性 (半耐冬)
金魚草	床	四月七	赤、白、黄、鳶、絞	五—二〇	
金盞花	床	三—五	樺、黄	七—一〇	二年性
パンジー	床	三—五	白、黄、紫等	三—五	二年性
石竹	床	四—五	桃、白、赤等	五—八	宿根性
デジ	床、鉢	四—六	白、紅、濃紅	三—四	宿根性
フロックス	床	四—六	赤、青、紫、白等	四—一〇	二年性

勿忘草	鉢、床	四月	青、白	三—六	二年性
ルーピナス	直	四月	白、黄、青等	一〇—一五	二(多)年性
スキートビー	直	四月	紅、白、桃、紫等	四〇—五〇	二年性
花菱草	直	四月	黄、白	一〇—二〇	二年性
ヒナゲシ	直	四月	紅、赤、白	一〇—二〇	二年性
千鳥草	直、鉢	四月	白、桃、青、絞等	二〇—三〇	二年性
矢車草	床	四月	白、桃、紫等	二〇—三〇	二年性
オダマキ	床	四月	青、紫、黄、紅等	六—一〇	宿根性
蟲取撫子	床	四月	牡丹	一〇—二〇	二年性
撫子	床、鉢	四月	牡丹、赤、白、絞等	五—一〇	二(多)年性
ロベリア	鉢	五月	青	三—五	二年性(半耐冬)
ストツク	床	四月	淡紅、黄、樺等	五—一〇	二年性(半耐冬)
カーネーション	鉢、床	四月	赤、白、紅、絞等	一〇—二〇	宿根性

幼兒にきかせるお話

珊瑚のくびわ

よ し こ

或るお家の臺所のながしにお魚がねて居ました。この魚は、今までは多勢の友達と一緒にたつたのでさうも思ひませんでしたけれど、かうしてたつた一人ぼつちになつて見たら、大變に海が戀ひしくなつて來ました。海はよかつた、ひろくした水の中で思ひきり鰭をひろげて、皆と遊んだこともあつたし、岩のかげにかくれんばをして面白かつたつけ、と思ひながら、さめくと泣き出しました。

あゝ海に歸りたい、でももう仕方がないけれど誰か連れて行つてくれるものはないかしら、逃げることは出来ないし、軀も弱つて居るし、又泣いて居ました。ふと氣がついて見ますと、この三

毛猫がさつきから、隙があつたらと思つて、ちよい／＼この魚を見て居る「猫さんは魚好きだから、もしかすると食べられてしまふかも知れないが、でも優しいから頼んで見ようかしら」と思ひました。

あゝ海が戀ひしい、青い水が見たくなつたと泣いて居る聲をきゝつけて、猫がそばに寄つて來たので、

「ましく猫さん、私を海につれて行つて下さいな」

「おや、魚さんかい、お前さんは口をきくことが出来ないものと思つて居たら、話が出るのだね、それは面白い、私は海の話がききたいと思つ

て居たのだ、まだ見たこともないのだからね」

「えい、海の話はして上げますが、それより私の願をきいて下さいな、何卒私をもう一度海に連れて行つて下さいな、私はたまらなく海に歸りたくなつたのです」

「さうかい、今まで随分お前さん達の世話にもなつたから今日は連れて行つて上げよう、ついでに海といふところも見て来よう、」

「さうですか、うれしいく、いゝ所ですよ、きれいな水の中はひろくして居てお友達が澤山居ます、青いのも、赤いのも、小さいのも、大きいのも、鯨なんてあの空を通る飛行船のやうですよ、こんぶもあるし、さといだの、あはびだの面白さうに這つて居るし」

「どれ、行かうか」

三毛さんは、ソーツと魚をくはへて、家の外に出ました、みんなに見つからない様に、犬だの、

意地悪の猫にあふと大變だと思つて、なるべく静かな裏通りを通つて、

「さあ海に來たよ」と魚を下ろしました。

「あら、これはどぶちやありませんか、もつとひろくつて、もつと水がきれいですよ」

又しばらく歩きました。

「そら來た」

「あらこゝもちがふの、こゝは川といふのですよ、海はね、もつと廣くて水が鹽からいの、一寸なめてごらんこゝのはたゞの水と同じでせう」

「なる程ね」三毛さんはのどがかはいて居るの
で澤山水をのみました。

すん／＼歩いて行く中に波の音がきこえて來ました、潮のにはひがブーンとして來ました。魚は體がおどる様にうれしく思ひました。三毛は砂地に魚をおろしましたら、

「あゝ、うれしい、私はもううれしくつて口が

「さかれません」といくつもくおぢぎをしました。魚は、

「ほんとに猫さんありがたう、私も水に歸れました、明日の朝早く又こゝに來て下さいね」

と云つてドブーンと水の中にとび込んでしまひました。始めて見た海をしばらく三毛はながめて居ましたが

「まあ、なんていゝところだらう、今まで食べて居たあの魚たちは、これなきれいな、靜かな水の中に居たのかしら、どうりでおいしい筈だ、一寸ならはいつでもいゝだらう」

さう云つて片手をつつ込んで見たら冷いのでぶる／＼としました、大事な毛をぬらしたのでペロ／＼なめて、家に歸りました。明日朝の同じ海のほとりに行つて見ましたら、きれいな砂地に小箱がおいてあります、三毛さまへと手紙もついて居ます。あけて見ましたら、

先日はありがたうございます、おかげ様で無事に海に歸ることが出來て、父さんや、母さんや兄だいや、友達が、大變によるこびました。海の宮のお姫様にも申上げましたら大變にあなたをおほめになつて、これを上げますとおつしやいました、どうぞお持ち歸り下さいませ、とかいてあります。箱の中をあげましたら、珊瑚の玉をすつとならべて作つたくびわが、やはらかい絹のきれにつゝんではいつてゐました。



自然界の觀察

東京女高師教授 平 島 權 藏

今度幼稚園令が出まして其の中に觀察といふ新たな項目が置かれました。其の觀察といふのは何んなものを、何う取り扱ふのかといふ事に付いて多少の疑問を持たれる方がいらつしやる。それ故に自然觀察に付いて話をする様にとの事でしたから、私は官報に發表しました様に、これを二つに分けて自然觀察と自然觀察の要點の二ツと致しました。

皆様の御手元に差上げた自然觀察案はこの東京女師高等師範學校附屬幼稚園で實行されて居るものを集め並べてプリントにしたものであります。此の自然觀察案の要點はいち／＼につきお話すれば良いのですが、此處にあげたものは一年中のもので、動物、植物其の他いろ／＼あり、廣い範圍にわたつて多大の時間を要しますので、この要點につき多少豫備を述べて、時間のある限り一つ一つに就いて話してゆきたい、その前に私は御承知の様に動物教室にゐる者であります。その私が自然觀察について幼稚園の貴女方に何故話し得られるかを申上げておく、本校の保育實習科に生物學の概要を授ける必要がありはしないかと時の中川校長が私に相談された、勿論大いに賛成し、必要を述べた、その時以來生物科を

擔任して本年方に十二年目であります、其の翌年安井哲子氏の紹介でミス、アルウインが玉成保姆養成所を新設され、其所でも同様の講義をしてくれぬかとの事で、その方にも出る事になり同じ時數を續いて持つて居ります、この人は大變熱心で格別生物學には其の度も強かつた。野外に採取に出られるのは勿論、講義中といへどもアメリカ式に遠慮なく質問される。幼兒と生物についての質問である。それで直接ではないが斯んなわけで幼稚園に關係があつたのであります。又私は子供があるので、其の方から始終氣になつて、必要な點であらうかと考へてたのが今日皆様の前に立たされることになつたのであります、それで自信はあります、實際に適切な要點を聞かれる方もありませう、この講義中でも、後にでも、又將來にでも若し生物と幼兒について御氣附きの點あれば何時にても尋ねていただきたい。御返答に勉めたいと思つて居りますから。

觀察の要點について、考へた結果これを一つ一つ拾ひ上げて個條書にすると八つ出來たので大げさの名をつけて自然觀察八則といふ。

1. 觀察せしむるものは生態を主とする事、出来るだけ生きて居るものをそのまゝ觀察せしむる様にし解體、解剖などをさけしむるやうにしたい。

2. 殘忍性を伴はざるやうに注意すること。純正生物學では隨分生物を殘酷に取扱ふ事がある。殊に近來の研究はそう云ふ事が多くなつたと云つてもよい。けれどもそれはその立場では是非もない事とし

て此處では甚く苦しめたりする様のない様に一時苦しめる時があつても觀察の後には放つてやること。

3. 凡ゆる生物の生を尊重する事、一木一草にも生命のある事を知らしめ、徒らにこれを殺傷することのなきやう、確固たる目的も、又其目的を推行するだけの自信もないのに、即ち動物の飼養も出來ぬに捕へ來たり、蝶、とんぼをむやみに殺したりする事の無い様に、動物採取家はむやみに採るやうに見えるが、あれでなか／＼注意して居る。採取道德といふものがある、決して亂暴にするものではない。

4. 觀察は時々連續的になさしむること、たとへば植物の種子から種子、動物の卵から卵へと云ふやうに、發芽状態から次第に成長して花をつけ實を結ぶに至るまでそれを連續的に自分で作らせ或は觀察させる、斯ういふ事は子供の喜びであり趣味である。

5. 觀察は常に自由ならしめると同時に幼兒本位であること。今日は如何なる事を觀察させようと云ふ豫定はきめない、大體今日はこの方面に、動物園に行つて見よう。裏へ行つて見ようの程度に。

6. 説明は問に應じて簡單にしたい。然しそれは何故、とか何うしてとかの問が連發して居る間は熱心にしてやらなければならない。幼兒の質問は眞剣でありますから。

7. よき機會を利用してその智識を擴めてやるやうにする、教へ過ぎるといふ言葉をきくが單に問のみに簡單に答へる以上に、求めて居る心持、好奇心を利用して、自然の妙理をさとらしむる様に、だん／＼伸し深めるに注意が肝要。

8. 自然觀察は即ち自然觀察であつて自然が對象でなければならぬ。お伽話と混じない様には是非實物に當面させて觀察し度い、これもある程度で時々文學的、詩的にとり扱はなければならぬでせう。これが私の自然觀察の八則であります。

さてこれに備へておく智識は何の方面がどの深さ、幅を必要とするかに問題を移します。先に述べたやうに十二年前にこれを始めて受持つた時に始めて見るとさあ大變逆も是は満足に出來ぬ駄目だと思つたこともあつたが、始終この事が頭を占領し、野に行つても山に行つても三崎の臨海實驗所にあつてもそれからそれへと自ら問ひ自ら答へ順々と問ひ詰めると分らぬ事だらけであります。いやに頭をなやまされました。が然し十一年後の今日では次第に面白くなつて妙なもので今は人に此の科をお譲りするのは惜しくなりました。其の智識といふものは單に表面的に廣くなければならぬのみならず、内面的にも深くしておかなければ『何故』に答へられませんか。併し長く經驗して居ります間にこの中に少しは系統があり、同一點のあることをも會得しました。最後にもう一言させていただきますが、注意して觀て居る間にいろんな事を發見したのであります。只、注意、要するに注意であります。

ヤドリバチ（寄生蜂）——（標本を示されて）——これは二三日前にマユから出た許り、生きてゐる間にお廻し致しますが、これは私の子供が見つけたのであります、廿二日の夕方自分が書齋に居りますと「お父さん、青むしが卵を産んでる」つて呼びに來ました、青蟲——紋白蝶の幼蟲——が卵を生む筈が

ない、きつと寄生蜂にちがひないと思つて一緒に下へ降りて見ますと豫想通りこれでした。

寄生蜂と云ふものは腹部の太いのと細いのと二通りある、太い方が雌で細い方が雄です。太い方の腹部に産卵管があります。これを青蟲の體にさし込んで卵を産みつけると其の中で卵が孵化し青蟲の體中の肉や内臓を食して成長すると其の體を食ひやぶつて出て來てマユを造るのであります。

マツケムシの寄生蜂も同様の經過を経ますがマユを造る時にはこれは宿主がケムシですから其毛に糸をかけてその間にマユを作ります。

觀察案の順に先づ蛙とおたまじやくしに就てお話致します。

或時に實習科の生徒に試問しました答案に次の様なのが在りました。

或る日蛙が一匹クローバーの葉の中に飛んで居りました。一人の男の兒はそれを見て面白がつて追かけて居りましたが、仕舞には石で脊中を打ました。他の子供はそれを見て何と思つたか、どうするのこの蛙を、と問ひました。私は取敢へず前の水瓶の中に入れて仕舞ました。水をやれば生き返ると思ひまして其時水の中の蛙を見て色々の事を問ました。

此様な時にほんとうに面白く教へて智識を得させる様にしたらと思ひましたが教へる私が淺學では迎もだめだと思ひます。

小供の興味をそゝる様な話方をして面白く其蛙といふものに就て話をして遣る様に其を先づ知つて置

く必要が在ると思ます。

其蛙を取巻いての小供の觀察は

一、トノサマガヘル、エボガヘル、どつちな先生

二、エボガヘルにおしつこをかけられるとえぼが出来る

三、蛙はおたまじやくしで在つたのね

四、どうしておたまが蛙になつたの

五、水の中でどうして泳ぐの

六、青い蛙もゐるはね

七、蛙は何を食べて居るの

とそれの中の蛙を見て問を發しました。各々に細かく其れ其れ見た事を聞ますと細かい所に氣がついて一寸した事でも聞ます。其れで此様な時にはほんとうに面白くそしてわかり易く何でも直ぐに答へてやる事が出来ます様に私達の方に十分に知つて居る必要が在ると思ひました。

蛙其のものに就て動物學的専門的にでなく小供達にわかり易く面白く且つ興味をそゝる様な方法でやつたならば唯空でお話するやうなものでなくて實際に見て居るので在ますから何れ程價值のあるものかわかりません。其れで蛙ばかりでなく何でも小供は大低斯の様な系統的に聞きます。

此答案を御聞になつて所謂「觀察の要點」が少くも蛙に就ての觀察の要點は御明かりになつたと思ふす。

觀察といふ事を如何に取扱ふか實に私は幼兒教育に對しては門外漢で在つて其は皆様の方が専門家で在ますが、然し私一個の意見を申しますれば、幼稚園での觀察は豫めどれだけ觀察せしむるといふ様な個條を定めて置く必要もなし又其うしては悪いと思ふます。其れから其觀察は出来るだけ自然の儘でさせるのが善いと思ふます。即ち植物ならば花壇庭園其他に生へてある儘、動物ならば生きて居る然も自由に活動し得るものならば其れを出来るだけ妨げない様にして於てさせるのが善いと思ふます。

其には上に述べた様な場合は實に得易からざる絶好の機會だと思ふます、上の場合を都合よく取扱ふすれば何れだけの智識が得られませうか單に智識ばかりでなく心的にも偉大なるものが握み得らるゝ事と思ふます此答案者が淺學を嘆じたのは實に故ある事と思はれます。

次には上述の場合に差支なき様にする爲には如何なる智識を要するかを一通り御話して後に立返つて是を考へる事に致ませう。

第一に蛙の種顔

ヒキガヘル 形が大きい。皆様も御存のもの。

エボガヘル 眞黒で土色をして居るので土蛙とも云ふ。ヒキガヘルよりは少し小さい。體中に疣が殆

ど隙間なしにある。

トノサマガヘル といふのは金線蛙とも云ひ、頭を高く前の脚を高くして休むのでトノサマに似て居るのでトノサマガヘルといはれる。

アカガヘル は名の示す通り少し赤色をして肉が美しく透き通る様に見えます、アマガヘルは名前が示して居る通り、雨が降る前によく鳴く。


アヲガヘル アマガヘルとアヲガヘルの區別は面倒である、兩方とも趾の先に吸盤があつて何にでも吸ひつく事が出来る。アヲガヘルのが大きくてアマガヘルのは小さい。又兩者共に趾間に蹼がある。アヲガヘルは蹼が澤山ついて居る、趾の長さの半分に達して居る、アマガヘルは極く少しばかり。


カジカ 良い聲で鳴くから水盤に飼ふ。

その他に外國のものにはサンバガヘル、ビバ、朝鮮に産する赤い腹の蛙、などがある。

蛙の皮腺 疣ガヘルの疣といふのは皮腺のふくらみであつて、此處には強いアルカリ性液をためてある液は絶えず製造されし居る。これを敵にいちめられた時に自分の肉を縮めてアルカリ性液を外へ出すのである。よく夕方蛙が出てくると犬が面白がつてぢやらすので蛙の方では一生懸命で例の液を出すので體はまつ白になつてゐるやうな事がある。

蛙の發育模様 は子供が面白がる、蛙の卵を取つて來ておくと、だん／＼に形を變へる。ヒキガヘル

卵は、長い紐狀に續き、丸い卵の上半は黒く下半が白い。白いのが養分になる。これによつて黒いのが育ち蛙となる。暫く立つと卵は  型になる。斯うなるとやがてオタマジャクシになるのに近い。

これが又少し立つと  こんな形になる。その頃になるとビロ／＼した紐からはなれる。浮き草などにブランコして居る。その間に眼とか口が出来る。その口が出来た時などが面白い。鰓があつて口の中に上下に齒がある。親の蛙にはない。水の中で植物を食べて生きてるから齒があるのである。後足が先に出来、前足が出て、それから鰓が引つ込み、それと同時に身體の中に肺臓が出来陸上にとび上る。ヒキガヘルヒキガヘルの卵は二月上旬に生まれ梅雨の頃子蛙になつてビヨン／＼。その頃は齒は最早なくて、虫を採つて食べる。不思議なことは動いて居る虫でなければ決して採らぬ。舌は肉質ではあるが下顎の前に着いて内側に疊み込んで居る。舌の先に虫をつけバクツと口中にたゝみ込んでしまふ。

それから蛙の鳴聲は、随分さわがしく泣き叫ぶが肺臓から押し出す聲が喉の筋肉の飛出して居るのに觸れて聲を出すのですが、尙叫囊といふものが在つて其凹入に肺から出る空氣が共鳴してあの聲となるのであります。叫囊の二個あるのはトノサマガヘル、アカガヘル、カジカガヘル、一個在るものはアラガヘル、アマガヘル。

水を泳ぐこと、後脚の方が發達して居り、蹼あり、趾の數も後は五本前は四本である。

蛙が水を好むことについて面白い話がある。時事漫畫の中に蛙の母さんが斯う云つて居る「蛙は雨降

ることを知つて居る筈なのに雨が降つて居るのに外で遊んで居ては人間に笑はれるではないか」是は大變な間違ひであります。樂天は動物學を知らない。何故間違つてゐるか云ふと、蛙の肺は簡單でガランドーである。そんな簡單な肺を持つて居るので肺呼吸だけでは間に合はない。皮膚呼吸がこれを助ける。呼吸は血管の中にある炭酸瓦斯を多量にもつた血液を酸素に充ちた血液にする。即ち瓦斯の交換であります。瓦斯の交換は濕つて居る動物膜を通つてゐなければ出來ない。常に皮膚は濕つてゐなければならぬ。それで雨を好む、雨が降つて來れば喜んで大人も子供も飛び出して來るのであります。

以上、述べた位の智識があれば彼の答案になつた様な幼兒の間には面白く話す事が出來ると思ふ。是で此講習に充てられた四時間の半を費しまして残りは唯二時間で在ります、如何に御話するのが有効かと考へました結果極簡單に出來るだけ觀察案に出して在る種類の多數に一言二言でも觸れる様に致ませう。

次は金魚、目高、龜、相當頭の良い子供であれば色々な形をした金魚がある事に氣がつくと思ふ。金魚は鰯の人爲陶冶を受けたものであります。云ひ變れば鰯から變つたものであります。それをヒブナといひます。ヒブナから金魚らしくなつたものをワキン、その次はリューキン元琉球王が島津家を通じて將軍に献上したところからこの名がつけられました。が脊鰭、尾鰭が長く強くなつて美しくもあるから普通飼つておくには一等良いでせう。

ランチュー、は脊鰭なし、これは餘程飼ひにくい。

頭にデコボコあるのはオランダシガシラ。

デメキンは支那から持つて來た。兩天眼は頭のテツペンに眼が向いて居る。其の他朱文金クジャクなどいふのもある。

メダカにも種類がある。東京ではメサカとも云ふ、赤いのはヒメダカ、白いのが白メダカ、まだらのもある。

鰯にもヒブナ、白ブナ、サラサブナ、あり。

鯉にも鰯と同様の種類あり。なほ革鯉あり、明治三十八年ドイツのドーフラインが東洋に採取に來た時に持つて來た、八尾皆雄ばかり、それを日本のヒコヒと合はせたものが現在の日本の革鯉であります。或る所に鯉が飼つてあつた、十歳位の子供が父と一緒に行つて『鯉があるく』と子供が云ふ、父は『でもウロコがないではないか』といふと子供は又脊中から見て『でも御父さん鯉ですよ』といふと父はそれじや何處かにすり當てゝ鱗が取れたのだらうと云つたそうであります。革鯉にはウロコがなくなると脊鰭、尾鰭の着根に少々残つて居るだけであります。此父親は是を知らないで在りました。歐洲の鯉は東洋から持つて行つたのであります。魚類の養殖の始めは鯉であります。

金魚に付いては澤山お話する必要はないと思ふけれど、飼つておくと面白い。卵から出た產まれたそ

のものは眞黒で次第に赤くなつて来る。鮎から進化したものでありますから此系統的進化を各個體が繰り返すのであります。飼ふのに注意すべきことは水にとけ込んでる空氣を呼吸してゐるのですから、始終新しい水即ち空氣を絶えず通ふやうにしやらなければなりません。飼育器の下部に空氣を送る管を取りつけ、その管から新しい空氣を送ります。其の時空氣は木炭又は海綿を通すと細かい泡を立てます是が大切であります。

ボーフラ、蚊

ボーフラは水面張力を利用して其所に止まつて呼吸します。呼吸のためには始終水面にゐるのが都合が宜しいが身が危険、故に絶えずもぐる。浮き沈みのこの時代を送つて蚊となるのであります。我々を刺すのは雌であります、雄は觸角が立派ですが、雌のはごく淋しく出來て居ります。(雌雄の頭部の標本を見せる)

ミズスマシ、アメンボ

これは水中にある昆蟲であります。ミズスマシ、ゲンロー、マガタゲンローなどはミズスマシによく似て居ります。水の中を泳ぐ昆蟲は脚に毛が密生して居て、水に濡れない様になつて居ります。又脚が長い。體は滑つこくなつて居ります。身體の裏側をのぞいて見ると身體全體が銀色で銀光りに光つて居る。それは顯微鏡的の毛であります。昆蟲の脚は一對を前にして二對を後に向けて居るのが普通であり

ますが、アメンボーは前の一對は物を握む様に中と後の二對で水上を走ります。

アメンボーの口は針の様に何かをつき刺す、つき刺して吸ふので有吻類に入ります。この有吻類といふ類には蟬も入ります。なほ名前だけあげるとタカメ——大變大きく、暴食をいたします。魚でも他の蟲でもつきさして食べる。ゲンゴローとタカメを一緒に採つておいた翌日見ると、ちゃんとゲンゴローは食べられてゐました。ゲンゴローは硬い前翅を持つて居りますがその横からつき刺して居りました。コオヒムシ これは雄の脊に卵を産みつけるのでこの名があります。

マツモムシ これは子供の喜ぶ虫であります。一名バツテラと虫も云ひます。

コミヅムシ マツモムシに似て居りまして一名風船虫ともいひます。コツプに水を入れ、その底へ日本紙を小さく切つて入れておく、そこへコミヅムシを入ますと下へもぐて行つて紙を抱いてフワリと浮き上つて来る所が如何にも風船に似て居るのであります。何故浮いてくるかと云ふと、これもボーフラと同じことで空氣を呼吸して居りますので水面で呼吸をします爲に體は浮く様に出來て居ます。然し浮てばかり居ては危険なので時々沈んで水底の草とか岩とかにしがみついて休めます。が此場合コツプの底の紙では支えがないから紙を抱いたまゝ浮き上ることになります。ビツクリして紙を放して又沈み再び紙を抱いて再び放しては沈み是を繰返すので在ります。

ミズカマキリ タイコウチといふのは前脚で始終何かありはしないかと太鼓を打つて居るやうな形を

して探して居るからであります。

ミズスマシ 時々陸上にとんで来る。この様は子供に不思議と見えます。

コマツキムシ 後を持つて居りますと頭をコツコツたたく、面白い虫であります。その音を出すのは胸部の後部と腹の前部を衝突させるのであります。

蝶

は何といつても唯美しいと云ふ事だけ其以上は殆ど説明は入りますまい。紋白蝶、紋黄蝶、スヂグロテフ、シジミテフ、アゲハ、クロアゲハ、カラスアゲハ、キアゲハなどの種類があります。ムラサキマダラといふのもあります、これは大變色が美しい、構造色又は物理色といふものであります。蝶には物理色を持つものは餘りありません。鳥の中に南米に産する蜂鳥つていふのがあります。

蝶の幼虫はケムシ、アラムシで、ケムシの方は蛾になる方が多く、アラムシは蝶になるのが多い。

蝶の粉は毒だと誰も云ひます。が何れも皆毒ではありません。少數の毒蛾のが有毒です、毒蛾は小さくて茶色であります、大正七年頃の新聞に見えた千葉縣の毒蛾は翅を擴げて一寸位です。

イラムシ蛾 イラムシの毛がつくとあついやうなヒリ／＼した感がある。毒であります。

蠅 蠅はおそろるべきものであると近頃しきりに蠅取りをして居りますが、蠅は色んな所に卵を産みます。凡べて生物は自分の生れ来る子の安全を豫期して食物の豊富の所に生みます。それでごみためなどに

よく産みつけるのでありまして、其處で大きくなつて外に飛び出した時は、體中ごみだらけになつて居ります、それで自由に飛びまわるために體をきれいに、眼もよく見える様にこすらなければなりません。これが習慣になつたのか蠅は始終兩手をすり合はせたり、頭を撫でたりして居ります。だから蠅は信仰家だのおしやれだのと云はれます。

蠅がツル／＼した所へでもとまるのは脚の先に吸盤があるからであります。その下には細い毛が澤山ある。それは皆肉質で絶えず粘液を出して居ります。

カタツムリは何故雨の日を好むかと云ふと、蛙と同じくやはり呼吸の關係であります。殻を透して見ると明るいガランドウになつて居る、これが肺の袋であります。其中に入り来る空氣を呼吸します。其れ故に乾いた空氣を嫌ひます、土の上にとまつてゐる時に觀ますと、土中に顔をさし込んで卵を産んで居ります。

ミミズも亦雨をよろこぶ、ミミズの匍つて居るのは細い／＼毛があつてそれで後ずさりをしてゐるのであります。

ツバメ九州の方では五月に来て十一月の半ばには引きあげる。九州から北海道あたりまで來ます。來て居る間は蟲を採つて食べる。必ず去年來たのが今年もやつて來て巢を作ります。小鳥が卵を産むのは四個乃至五個まででありまして、子供が巢から出るまでに育ちますと親鳥は飛ぶことを教へて居りま

す。

ウグイス 今頃はもう東京には殆んど居りません。里に出て来るのは秋で春になると鳴きます。五月頃に卵を産みます。笹を集めて低い所に巢を作ります。地上から二尺か三尺位の所です。

ヒバリ 螺旋狀にクルイまわりながら舞ひ上ります。飛び出るのは自分の巢からですけど決して自分の巢の真上へは降りて来ません。ヒバリは後趾の爪が長う御座います。

スズメ ほど周圍に注意する鳥はありません。人家に近く敵多き中に住む習慣から來たものでせう。

サクラ はこれはこれとは許り花の吉野山で結構であります。其以上に譽める言葉は在ません、寒ザクラは二月の末に花を開きます。大島の原産で花が赤いのでヒザクラとも云ひます。彼岸ザクラは花が小さくて枝が細長い。シダレザクラはヒガンザクラの園藝變化であり、單に云ふサクラ即ちヨシノザクラ若しくはソメイヨシノといふのは伊豆の大島の原産であります。



タンポポ 果實の飛ぶところが面白い このトゲで引つ懸つて、そのうち泥が懸つて來ると埋まるのです。

アザミ 花にさわると花粉がふき出ます。柱頭の周りに葯が五本連つてとり巻いて居りまして、その花絲が上に物が觸ると途中が膝の様に折れ屈むので中の柱頭が上に押し出されると同時に花粉を突き出すので在ます。で花にさわると花粉がふき出るやうになるのです。

時間がなくなりましたからずつとばしまして植物に付いて興味のありそうな事を一寸述べておきませう。

蟲媒科植物の花が蟲を迎へるのに何んなに精巧に出来て居るかと云ふに、きれいな花の色、注意をひく花の色に、香に、花粉は蟲に附着して持ち運ばれるべく粘り氣を持つて居ります。花の構造も亦都合よく出来て居るのであります。

風媒科 はその花粉が多量で散り易くなつて居ります。

種子、果實の散布にいろいろあり、風によるもの、水によるもの、又は鳥によるもの、人畜、附着によるもの、汽車、汽船に乗るもの。

植物が養分を次の年のために貯へおくなど、冬野外に出て、植物は如何にして冬の寒さを越すかをみやるのも興味があります。

要するに自然界に注意することが、興味を持つて観ることが物を分らせて呉れるのです。(さく)

幼稚園令の讀み方

— 講 演 大 要 筆 記 —

倉 橋 惣 三

本年は幼稚園令が新たに定まりましたとお互に大變よろこばしいのでありますが、その令に付いて少しばかり話を申上げようと思ふのであります。但し御承知の如く新しい令は其の内容におきまして從來の幼稚園規定とそんなに違ひはなく、殊に所謂教育的内容は違つて居りませぬ。従つて從來幼稚園で考へられて居たものが新幼稚園令によつて根本的に別の問題を起すと云ふことはありません。

先づ一通り幼稚園令を基とした解釋をたどることが便利だと思ひます。そこで今回は三ツの問題即ち一、幼稚園の目的に關する事項。二、保育項目。三、幼稚園の社會的機能に付いて考へて行き度いと思ひます。

一、幼稚園の目的に關する事項

目的に就いては古い幼稚園の規定では、極く形式的な言ひあらはし方であるに對して、新幼稚園令は内容的に示されて居ります。而して其の内容は、舊規定に於て幼稚園の教育方法を指し示す條項として擧げられてゐたものですが、方法の規定を目的の表示に移したところに法令のこゝろとして自づから差

別があります。

ところで、私はこの第一條について斯う云ふ點を考へて居る。新幼稚園令の特色は幼稚園の社會的意義を最も高めた所にある。平たくいへば從來幼稚園といふ名でなく社會的仕事として考へられて來たことが幼稚園の名で行はれることになつた事です。この意味がどしどし徹底普及することを勿論希望するが、此處に考ふべきは幼稚園が社會的意義に偏して來ると、その本來の教育的目的が稀薄になる危険がないでもない。非常に苦勞性に考へて見るのでありますが、これは從來社會事業としての保育事業を見てそう思ふのです。社會事業其のものに非難を試るものではありませんが、幼兒生活の目前の危急を救ふために教育的目的が第二になることが從來あつたのであります。私共の心配することはその點であります。社會的職能は勿論大切である。私も後に之れを充分に力説しようとして居るのですが、それを以て粹純なる教育的目的を少しでも犠牲にしてはならない。幼稚園は何處までも教育事業なのであります。單純に子供を預つて衣食の世話をする所ではありません。この關係から新令が特に教育的内容を以て第一條としたことに可なり強い意義があると考へられます。繰り返して申せば從來の規定の様に、幼稚園は學齡前の子供を教育する所だといふよりは餘程教育的に目的を強く明かにして來たといへる。これは或は今日の皆さんに必要ではないでせうが、幼稚園の將來を思ひますとかなり意味深きものと思ひます。

さて『第一條、幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育

ヲ補フヲ以テ目的トス』といふに對して、一つ一つの言葉に注意を向けますと、先づ第一に「心身ヲ健全ニ發達セシメ」とは如何なる意味でせうか。常識的に分つたことでありますが二つの注意すべき點があると思ふ。一は身體の健全といふことであります。この身體の問題については新令は只第一條に於て一度言ふのみ、他の何處にもない。この意味からして新令の全體を通じて色んな事が説いてあるに關する身體の條項が足りないの感を持つ人があります。殊に近來の多くの外國の新しい幼稚園令はむしろ身體の方に多く注意して居ります。英國のナーセリー、スクールを見ましても先づ身體に重きをおいてそれに添へて精神の保育もしなければならぬとしてあります。今度の我が令を見ますと身體衛生の項は殆んどない。少くも法令の言葉の上に於ては多く擧げてない。この意味からして此の第一條のたつた一字ではあるが、この言葉は相當に注意して見なければなりません。たつた一字なれば特にこの意味を明らかにしておく必要があります。小學校令を見ますと「心身ノ發達ニ留意スル」とあります、即ち心身の健全なる發達其の者を表面の條項にあげず、外の事を擧げしかも「留意シ……」としてある。小學校教育としても斯んな消極的では物足りない。目的として擧げられなければと云はれて居りますが、幼稚園は留意でなくて發達させることが表面の目的となつて居るのであります、時經てこの言葉に慣れて來ますと一句一句を不容易に見逃し易いのでありますか、「身體ヲ健全ニ發達セシメ」は重要な一の積極的目的をなして居るのであります。

それから「心ヲ健全ニ發達セシメ」の意味は如何。これも亦分り切つたことですが、細かにいへば、斯んなに讀む必要があると思ふ。即ち、其の次の言葉に「善良ナル性情ヲ涵養シ」とある。これは「心ヲ健全ニ發達セシメ」と別な言葉ではないかとも見られる。凡そ法令といふものはいわゆる文章でない一字と云へども不要なものは附けてないのです。其處でそれが何んなに區別あるかを明らかにしなければならぬ。私の解し方は「心ヲ健全ニ發達セシメ」はいわゆる自發的活動即ち精神の強い自發力を内容として居るものと見る。「善良ナル性情……」は勿論自發と別なことではありませんが、むしろ内容的價值を主として居ります。つまり、心の教育に關し、重要な二方面を對立させてあるのです。私共が幼稚園令の出づるに對して希望を論じあつた時に、幼稚園教育は専ら自發的活動を主とすべきで外から色づけ形づけるのは第二の問題である。幼兒の自發活動を存分に發揮させればよいので、外から形づけることは近來の教育主義に適はないといふ傾向の意見が随分出ました。殊に舊規定で「……習慣ヲ養ヒ……」といつてありましたが何となく古くさい感じがする。外から躰けて型をこしらへる響がある。で新しい本旨に添はぬ。だから「幼兒をして自發の生活を十分ならしめる事」といつた風のことで目的を示した方がよいといふ極端な意見もありました。其れ程新しい幼兒教育は自發活動の健全を要求して居る譯なのです。すなはち、心の健全なる發達とは心の内容が何うあるかといふよりも、心の強さが主であります。幼兒の心の強さは自發活動と同じであります。漠然と考へれば何でもありませんがこういふ風に

考へられるのです。

そこで自發の心の強さを「心ノ健全ナル發達」の方に入れて、さて其の次「善良ナル性情……」といふことになるのですが、此問題についても色々の議論が出ました。自發主義、殊に自由主義、自然主義の人からは、善良といふことは吾々に誤謬を起させる。善良といふ事は完全に近い言葉であり、善良といふ言葉を使ふと完全といふ方にばかり氣がとられる。ところで、完全は出來上りの結果でありますから、これを幼稚園教育に註文することは幼稚園教育の本旨に合はない。子供は自然のまゝに育てゝ行けばそれでよいので此方から其ういふことを要求するのは害がある。言ひ換へれば大人の標準が子供を律するからいかぬといふ風の極端な意見も多くありました。しかも、幼稚園令の規定する所では自發活動と共にやはり善良なる性情をはつきり擧げてあるのです。即ち、第一條に於て、自由放任主義は斷じて禁じられて居るのです。やはり吾々の要求する善良を求めて居るのです。之れは意味を籠めて讀むべき點です。處で此の言葉は舊規定のまゝにはなつて居りません。善良なる習慣が性情に代つて居ります。大して違つたことでもないと思はれませうが、習慣には外から與へる響あるに對し、性情はどこ迄も内容的、實質的であります。又、善良と性情を「ナル」で結びつけてありますが、これを善なる性情といふ一つの事に讀み度い。即ち幼兒の性情といへば生活を離れてはない。有りのまゝを離れては幼兒の性情はない。性情をはなれて性情を善にするといふのではなくて幼兒の善なる性情を問題にして行くといふので

ある。つまり、善良といふ言葉を幼兒生活を離れて考へてはならない。幼兒としても善良さは何かといふことに局限しなければならぬ。言ひ換へれば如何に善なる性情と名付けられるものでも、餘り立派な聖人君子の様な完全な善性情は幼兒には求められない。善は倫理學の殊に理想主義的倫理學の大人の生活に求めるものでありますから、斯様なものをそのまゝ幼兒に求めることは幼兒の生活に適合しないことは先述のとほりです。そこで幼兒性情に就ての特別な研究が必要になります。

其の次に第一條を見ますと「家庭教育ヲ補フ…」とある。これは前規定にもありましたが今日の新令では一層廣く深い意義を持つて來たものと思はれます。廣くとは、從來の幼稚園が社會的の職能を持つて居なかつた時には、社會の一部の家庭教育を補つて居ましたが、新令に基づけば全體の家庭をめぐして居るのであります、大變に廣い意義になる譯です。そこで私は第一條を斯様に見ます。前の「心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ」は個々の幼兒についていふことで、「家庭教育ヲ…」國家的に社會的にいつて居ることだと差別して讀みます。それから、深さとしては、幼稚園が社會的職能を發揮する時は當然家庭生活上の缺陷を補ふために活動しなければならぬ。併しこれは本來ではない。家庭生活を補ふのに懸るのではなくて、幼稚園教育は家庭生活にまで徹底しなければならないからのことであり、此處を嚴重に分つておく必要がある。食物を與へ、衣服を供することも要するに教育の手段として考へられるのであります。「家庭教育ヲ補フ」は斯様に從來とは廣さ深さに違ひあることを認めなければなりません。

ん。念入りに見た時の解釋であります、尙、幼児の善良なる性情については次に述べることにします。

○

昨日申し忘れましたが私の今度の話は新令に關する註釋ではありません。完全な細い註釋を試るのではありません。そういふことは短時間で私のするべき問題ではありません。こゝには、たゞ幼稚園令を實際上より考へる注意として、それ〴〵の點につき重要と見るものを抜いてゆくのであります。

昨日につゞきまして、幼児としての善良なる性情は何う解釋するか。幼児に希望するものを完全に羅列すると非常に多大なものになります。そこで、昨日も申した通り、「幼児としての善良なる性情」として何ういふことを特に主として考ふべきかにつゞきまして、思ひ付きの點を挙げます。その第一としては斯ういふ考察をして行き度い。幼児なればまだ本當の意味に於ける完全した道德生活は要求出來ない。道德に對する正しき理解とそれを實行する要件がまだ具はらない、殊に大人に於ける場合は實行を以て重要事とするが、幼児ではそれが六かしい。故に、幼児としては、今現に、どれだけの道德條件を具へて居るかといふことは、大した問題には出來ない。そこで、私は、少し違つた方面から此の問題を眺めて見たい。すなはち、幼児の場合には、幼児が今どれだけの善良さを具へてゐるかの前に、幼児がどれだけ、善を受け取り易き性質を持つて居るかといふことで考へてゆきたい。例へば畑を見て、今どれだけの美しい花が咲いて居るかでなく、どれだけ良い種を受け取り得る様になつてゐるかを主にしたい。幼

兒の心が既にどれだけの美しい花を持つて居るかでなくて、美しい花の種を受け取り得るやうに耕されてゐるかを考へるのです。大人の場合でも此の考へは大切だと思ひます。私の考では善なるものは外に澤山ある。その善をよく受取り得る様によく耕されて居ることが誰れの心にも必要なものであります。まして小さい幼兒に於ては既に善良であるといつたところで知れたもので、人間生活に入つてまだ僅かの事です。むしろ無限の善を容易に受取つてゆき得る處に望みがあるのです。乾き切つた瓦石の様に、良い種をはね返したり、枯したりするやうなことがなく、しつとりと良い種を培ひ得る様に柔かに耕され、うるをひを與へられてあり度いのです。周りの人間から善良なる心持を容易に受取り得る、即ち好意を受取り易い性質、外からの好意を引き外さずして素直に受けとれる性質、それが持たしたいのです。そんな事は何でもないと思はれるかも知れませぬが、吾々人間生活として可なり六づかしいことであります。何でもいゝ種が受取れる土は地球上に少いのであります。多數の人間は人の好意を直に受取り得る様に耕されてはゐない。色んなものが素直に受取ることを妨げます。ひがみ、そねみ、邪推、嫉妬、裏を穿鑿するまわり氣のみならず、そのまゝ受けては人に負けてる様な、人の親切を受けるのがくやしいといった、頑な自我の態度があります。それが子供の場合には如何になつてゐるかと考へますに、勿論全體として私共の様な頑な心と違つて軟い心素直な心であります。併し案外に子供相當のそねみ、ねたみ或は勝ち氣、負けぬ氣がある。利かぬ氣、負けん氣は面白いものではあります。が人の好意を受取るのに

屢々邪魔です。幼稚園に來る前に人から何うされたのか、又は本來その子の性であるのか、吾々の傍に來る前に、既に、そんな心になつて居るものが少くない。これは幼兒の心を悪く云ふのではない。若しも幼兒がどれだけの善い事をするだけにあるかを考へるならば問題にはならないが、善を素直に受取れるかといふ點に於ては、これが意外に氣になる。幼兒の性情として最も氣になることと思ふ。

そこで、その好意を受取れる心を如何にして幼兒に養ふかの問題でありますが、第一、吾々が好意を子供に充分與へてやる、絶えず好意を経験し得る周圍、環境であらしめたい。好意は好意にして必ずしも幼兒の心に完全な道德的影響を與へることとは區別があるのです。善の教者は子供の手本です。自分の持つ小さい善でも子供に與へなければならぬ。これは勿論大事でありますが、私のこゝに申してゐるはそれと違ひます、與へる教へるでなくて、好意其の者を與へるのです。好意とは子供自身に向つてしむける所の好意であり、善とは子供と自分との關係でなしに考へられるものであります。好意はその子に與へられる個人關係でありますから、その幼兒に對して一般的の原理を持ち出さぬことも其の一であります。一般的の規則を適用しようとする批判、審判になる。それではならぬのです。好意の特色はどこまでも一般的、普遍的善と違ひます。善が多少崩れても個人的感情に徹底していく處に、好意の眞實性があります。私共の子供に對する態度は必ずしも冷淡ではない。併し時々、其の子供を子供として個人的に見ない。一般的な原理を以てさし向ける爲に、眞の好意が十分行はれて居ない時もあらうかと

思ひます。子供を教育しようと思つてゐない時ならば、樂々と出来るかも知れぬが、教育感を持つと自づと一般的の標準を以て其の子を批判する様になり易い。殊に善良性を養ふといふことになると、一層陥り易いことであります。

次に幼兒に向つての好意が更に深く徹底すれば「ゆるし」となります。ゆるしは法を適用して許すこととありませうが、好意から出るゆるしは其の幼兒に即して一般原理の適用を忘れるといふことにあります。一般法則を以て責める心が起らないから、其の子供のその時の心に對して無限のゆるしの心が持てるのです。ゆるしは或は宗教的の意味に考へれば六づかしい事であります。言葉としては美しいけれども中々行はれ難いことです。しかしそれとは暫く區別して、極めて簡單に、好意があるから許すといふことは六づかしいことではなからうと思ひます。けれどもこれも實際的には中々出来ない。ともすれば、凡べて一般的に律するといふ様になる。いわゆる教育的責任感が吾々にある以上、どうもそうなり易い。幼兒は左様な許しを受ける度に人の好意を受取り易くなります。例へば子供が花壇で花を摘み採る所を見られた時、子供自身悪い事をしたと感じて居るでせうに、花を採り度いと欲した子供の純個人的生活に即して見る時には、無理もないと理解が起る。その心をそのまゝに表はして「欲しかつたでせうね」と云つたなら道徳上からはルーズなと非難されるかも知りませんが、其の子は罪を許されたつていふ細やかな經驗をするのです。或は家庭などで御客様の御歸り後お茶碗を持つて茶の間に出かけ出す。途中で

轉んでこはす。一般的立場からは裁かなくてはなりません、女中の手助けに持つて行かうとした。一つ宛運べばよいものを熱心の餘り一時に持つて、しかも驅け出したその心根を汲みとつて「困りましたね」つて言つてやる。その他のことは一切見ない。幼児の目の中には現にこんなに困つてゐる私を何故見てくれないのかとのうらみが見える。辯解しようとする態度がまだ出ない前であります。この態度の出ない前に幼児の困つてゐる心持を汲みとつてやれば幼児は純粹な感情でワーツと泣いて抱きついてまゐります。斯様な關係を私はゆるしといはうとするのです。從來の教育の仕方では甚だ認められないことでした。從來の幼稚園の先生の困り迷ふ問題は、何分賞めて何分叱るかでありました。賞罰の割合について古くから苦勞してゐられるのです。何故思ひきつてゆるしませんか。賞罰を感じながらしないのではない。初めからゆるしの心に出ませんか。如何にして罰すべきか、賞すべきかからはできない。先生自身が其の時直ぐに心持を汲取つてゐなければ眞實にならない。但し、一寸見たところゆるしはえこひいきになり易いが可愛い子には寛大、鼻垂らしには嚴といつた風のえて勝手の許しとは似て非なるものであります。この許しが潤澤に與へられるか、或は一回でもいゝ、眞實に與へられた子はその度びに人を受ける廣い心に開かれてゆくのです。一回といへども大きな効果を來すのです。

第二には子供が吾々に向つて表はす好意を私達が十分に受取ることです。子供は勿論さつぱりしたものでありますから、濃厚な情愛を持つものではない、簡單です、けれども淡いながらに、しば／＼小さ

い好意をはの見せる。それを一つもらさず受取つてやる、一つの好意と雖も受取られずに終らせぬやうに細かい注意が肝要であります。例へば先生が手技をしてゐる。のりが要る時傍に見てゐた子供が感付いて飛んで行つて鉄を持つて来る。これ好意であります。間違つてもその好意は十分汲みとらなければなりません。或は私共がいろいろ忙しくして勞れてゐる時に寄つて来て、團扇であふぐものもありませうが、中には其處まで動作に表はさぬ子もありませう。離れてぢつと見てゐる子の心中も十分汲み取つてやり、良解し得る注意さがなければなりません。小さい好意でも受取られることを経験する時第二、第三の好意を持ち得、次第々と益々好意に満ちて来る。

實際上より見ますに、幼兒達で、此許しの経験を受取つた経験を持つものが餘りに少ないのであります。或は折角示した好意が曲解さへされた境遇も多いのです。手近い言葉でいへば、子供をして人間にこり／＼させて居るのも見られるのです。自分が折角眞實を以て理解して貰へようとする時に誤解される。これが三才、四才から屢々経験されるとしますれば、自然、人間を拒絶するところまではいかなくても、人間を防ぐやうにはならざるを得ません。自分を守るのは、外から悪いものが來た時には大切な事ではありますが、外から來る善いものを受取り易くしようとする立場からは憂ふべきものであります。子供に向つて幼稚園の期間二年乃至三年に、どれだけ善いものを教へられるかは知れたものでありますけれども、人間に對する窓を開いてやることは吾々によつて出来るのであります。既に斯う云ふ時に邪推

そねみが出来たものは、少年期、青年期には直すことは實に困難です。一度頑なになつた性癖を軟かくすることは六つかしいのです。だから幼稚園教育に於て、特にこの意味での性情教育の重要さがあるのです。

理想主義の見方をすれば世には惡の方が多し。審く心でものを見るならば善は世にない。紙屑屋の様にえり分ける時に世の中に果して何れだけの善がえり出せませうか。しかし、凡てものを善にうけとつてゆく。即ち善解の態度を以てしますと、同じ世の中が、到る所、凡て善であります。この事について私は他の方面から話をして見ませう。即ち今までは主として善について考へて來ましたが、これを美に置きかへたらばどうでせう。審美的態度は大切でありますが、美しいものを美しいとして受取り得るのを徹底してゆけば、其の心は伸びて世の中のもの凡てを美解し得るようになる。えらい藝術家になれば吾々が見落してゆく美なるものを見出す力があります。善に對しても同じではありますまいか。若し同じならば一切に對する善解といふことも養はれるではなからうかと思ふのです。理屈をはなれて子供の中で見ませう、大きく分けて二色に見られます。一人の子は凡てを惡解する。人のする事を何でも難癖つける。告口をする。今一人の子は惡い事が見へないのではないでせうが、氣に付かないのです。善を努めて探すのではない。一見、砂ばかりと思はれる中から、磁石は鐵を引きよせます。善解の心はこの磁石の様なものです。そういふ子どもゝあります。

こゝに現在どれだけの善を持つかよりはすーつと基本的な善良なる性情が養はれて居ります。善解を他の言葉でいひますと惡を責めず、抱擁することです。子供の場合では考えられぬと思ひますが、人間的のよろこび、感謝が心の中に漂ふ時に凡てが善に見られると思ふ。善として見られる事を見得るの他の意味ではないのです。心全體が積極的^{よ、よ、よ}のよろこび、感謝に満ちてゐる。而してこのよろこびは何處から與へられたかといへば、深い問題にすれば宗教的になるが、併し今は人間の問題としてゐるのであつて、先程のゆるしであります。自分の好意は凡ての人が汲みとつてくれると信する時に凡ての物を責める心が出て來ない。この氣持で養はれた子供は又其の氣持ちで働きかける。循環的な關係が實現して來るのであります。

幼児教育に於て善性はこれだけといふのではない、その中の最も基本的、根本的な一つとして考へたのでありまして、斯う考へました時に吾々の立場はなか／＼六づかしい。斯んな性質を持つ人でなければ出來にくいからです。併し、其の子の持つて來る好意を注意深く、十分に受取ればよいのだと考へます時には一面に於て私等の立場も樂になりませう。(未完、きく)

觀察實施案

名古屋市保育會

七二

左記「觀察實施案」は今夏愛知縣保育大會に提出協議したるもので、尙將來も引續き研究不備を補ひ、進んでは觀察カレンダー完成迄の、連續研究の一部であります、皆様の御批評を仰ぎ度く、茲に提出しました。

觀察實施案

一、目的

自然界及人事界ノ近易ナル事項ル直觀シ觀察ノ興味ヲ喚起シ一ハ自然ヲ愛好シテ敬虔ノ念ヲ培ヒ他ハ生活ヲ擴充シテ同情ノ心ヲ養ヒ兼テ知識ノ一斑ヲ得シムルヲ以テ目的

二、事項ノ選擇

トス。

(イ) 選擇ノ方針

事項ノ選擇ハ左ノ各項ニ留意シソノ組織的ニ遺漏ナカラシメンヨリハ寧ロ性情ニ適應セシメンコトヲ期ス

- 1、幼兒ノ日常親炙セル事項
- 2、幼兒ノ興味ヲ惹起スル事項
- 3、幼兒ノ理解シ易キ事項
- 4、幼兒ノ體力ニ適スル事項
- 5、危險ノ虞レナキ事項

(ロ) 事項

1、自然界ニ屬スルモノ

A 動物ニ關スルモノ

魚類、虫類、獸類、家畜等

B 植物ニ關スルモノ

樹木、花卉、果實、穀菜等

C 礦物ニ關スルモノ

金屬及砂、石、粘土、泥土等

2、自然現象

A 季節ニ關スルモノ

四季、風、雨、雪、霰、雷等

B 天象ニ關スルモノ

太陽、月、星、日ノ出沒、時等

C 物理ニ關スルモノ

蒸發、引力、磁石、電氣等

D 化學ニ關スルモノ

石鹼ノ効用等

3、人事界ニ屬スルモノ

A 幼稚園内ノ年中行事

B 町内ノ主ナル行事(幼稚園所在地)

C 日常生活ニ用ヒラル、器具調度類

D 神社、佛閣、官衙、學校、商店、

交通機關等

4、偶發事項

三、事項ノ排列

觀察スベキ事項ハ之ヲ孤立的存在ニ求メズ
シテ必ズ共存體トシテノ組織中ニアラシム
ルヲ要ス

(排列細案ハ目下作製中)

四、施設

1、園内ノ設備

A 植物ノ栽培

花壇、畠、鉢植、沼、温室(フリューム)

B 動物ノ飼育

水簇箱、土簇箱、小屋、鳥籠、池等

C 子供博物室

鑛物、繪畫、標本等

D 箱庭

E 築山、砂場、泉水等

2、園外ノ利用

A 神社、佛閣、公園等

B 山、丘、田畑、森林、原野等

C 川、瀧、溪、流、海等

五、觀察ノ要點

1、自然界ニ屬スルモノ

A 動物ニ關スルコト

ソノ生活狀態ニ留意セシメ幼兒ト

ノ關係及人間生活ニ及ボス効果ノ

多大ナルコトヲ知ラシム

B 植物ニ關スルコト

發生萌芽、開花結實、紅葉落葉等

自然ノ偉力ト人生ニ對スル貢獻等

ニ留意直觀セシメ其恩惠ヲ感ゼシ

ムルコト

C 鑛物ニ關スルコト

幼兒ノ環境ニアル鑛物、土壤ガ人

生ニ如何ナル關係アルカラ知ラシ

ム

2、自然現象

四季並ニ天文氣象、地理方位、時

等機會ヲ捉ヘ宇宙ノ現象ヲ直觀セ

シメ人生ニ關係スルコトノ大ナル

ヲ知ラシム

3、人事ニ關スルコト

一般社會生活狀態ニ觸レシメ相互

生活ニアリテ共存共榮ノ心ヲ養フ

コト

六、觀察ニ關シ取扱方

觀察ハ綜合的情操の取扱ヲ主トシ分析の知

識的取扱ヲ從トス今其特ニ留意スベキ點ヲ
舉グレバ左ノ如シ

1、觀察事項ハ偶然的關係ヨリ觀察ノ

機會ヲ捕フルヲ以テ可ナリトスレ
トモ又豫メ一定ノ觀察ヲナサシム
ル計畫ヲ立ツルヲ可トスルコトモ
アルベシ

此場合ニ於テハ成ベク準備ヲ周到
ニシ幼兒ノ思想ノ流れニ一致セシ
メンコトヲ計ルコト

2、幼兒ヲシテ植物ヲ栽培シ動物ヲ飼
育シ鑛物ヲ採集セシメ又人事界ノ
事項ニアリテハ或ハ之ヲ實地ニ見
學セシメ時宜ニヨリテハ模倣的ニ
遊戲セシメツ、體驗セシムル様努
メテ實際的ニ取扱フベキコト

3、努メテ幼兒ノ態度ヲ自發的ナラシメ保

七、觀察ノ細案

(研究中ニ付之ヲ欠ク)

八、注

意

姆幼兒ノ觀察ノ結果ヲ聽取シ必要
ニ應ジテ適當ナル説明ヲ與フルコ
ト

1、觀察事項ハ一時ニ多岐ニ亘ラザル
コト

2、觀察事項ハ度々反覆スベキコト

3、唱歌、談話、手技、遊戲等ヲ行フ
際努メテ觀察事項ヲ捉ヘンコトヲ
心カクルコト

4、年中行事、其他園ノ内外一切ニ亘
リ觀察ノ機會アレバ之ヲ逸セザル
コト

「幼稚園雑草」を圍んで

の　ぎ　く

A つゝましい感じ。表紙を見た時、著者と題字の色も、線も。深山がくれに咲く野菊、ま白な、花瓣の裏にうす紅をさしたような、そして芳ばしい香のする、背の小さい野菊、あのやさしいつゝましい、そして氣高い姿のよう。

B 「あら、そんな單一な花ぢやあない、雑草は即ち雑草ぢやあないの、雑草の豊かな内容が、そんな一つの花になると消えてしまふような氣がするわ、私には、早春の淡褐色の枯葉の下から、ぐんぐん芽ぐんで出る若緑のいろ／＼な草も、すく／＼と元氣よく伸びる夏の野の草も、その中には細い葉も廣い葉も、繪模様のようなものも夢見るような月見草も、こぼれさくはこべの花も目覺るような日葵も咲く。赤とんばや、きり

／＼と一處に晝は子供夜は月の友達になる秋の叢も、枯草の上の日和ぼつこから云へば冬でも、四季を通じて、あらゆる草の自然の姿、生々した、伸び／＼した純真そのもの。それを鉢にとらず根分けをしない、生きた姿、いろ／＼の生命が、踊たり考へたり微笑だり。様々の姿そのまゝで調和してゐる、それが私のうけた感じよ」

C 「私まだその外に、BさんのものAさんのもの違ふのではないけど、もつと私に考へないでもすぐなんだか感じるのは、雑草つていふので親しみ深あい、ほんとうにお母さんと子供の間のわざとらしくない親しさ暖かさ、それが一番私には此の本をなつかしく思はせました。それとも一つ矜を正してするのではない、ありのまゝの謙遜、禮儀ではない、生れたまゝのとりつくろはない、謙虛な心が此本の題に、色に、そして文

字の一つ／＼にあふれてゐるように思ひます。

「幼稚園雜草」……なんてありのまゝのへりくだり、と親みのこもつた響と色彩、私すぐさう思ひましたわ」

ある處で「幼稚園雜草」を圍んで、こんな會話がありました。其夜F子は夢中でこの本のペーヂをくつてゐました、また幾度か後戻りもして。ばつと、明るくなつた夜半の電燈の下にやつと我にかへつて本をとぢた彼女は、こんな獨言を云てゐました。

詩だ、詩だ、地を踏むでゐる現實の、生きた人の聲の。架空の光を追ふ瞬間の詩ぢかない。私はずつと以前に讀んだんだ、たしかに、くりかへしよんだ所がある。けれど其時見えなかつた、野が、流れがこゝにある。その時かすかだつた山が、今は、まぎ／＼と目の前にそびえてゐる。

同情、慰安、獎勵、主張、諷刺、希望「ペスタロ

ツチの酔人の妻のようね」誰かゝさう云た。でも「酔人の妻」には、こんな親みはない。「うちのあかない幼稚園教育」私達はよく迷路のように、とかく思をたどつた末にこんな、なげやりをいふ。ほんとうにすまない事だ。

「幼稚園雜草」これは私達の、バイブル。詩篇。よむ毎に廣くなり深くなる。更にこの著者を日本に持つことは私達の爲に、世界の幼稚園の爲に地上の子等のために、何といふ幸福だらう。

幼児教育者は教育學を讀む前に、心理學を研究する前に「幼稚園雜草」をよまなければならぬ。そしてそれは其人の詩篇でなければ。(九、二四)

雜 錄

愛知縣保育大會

愛知縣保育會

大正十五年九月三日より五日まで、我愛知縣教育會が主催となつて、縣下幼稚園關係者の爲に、保育講習會并に保育大會が開權されました。

講習會にあてられた三日四日は恰も大暴風雨の日であつたにも拘はらず、縣下四十餘の幼稚園關係者は、矢玉の雨を冒して、會場である女子師範學校へと集り、午前九時會は開かれました。

先づ縣知事代理として御臨場になつた、教育課長が「幼児教育の人生最も必要なることや、我國の幼児教育が諸外國に劣つてゐるが茲に早くも目醒た當局が、幼稚園の獨立を計り法令の改制にまで速進したといふ、この目出度い今日を祝ふと同

時に、保姆諸氏の自覺云々と」懇篤なる訓辭がありました。

これについて、奈良女子高等師範學校附屬幼稚園主任會澤タカエ先生は、別室に遊ばせてあつた年少幼兒二十五六名について、談話の實地保育を試みられました、題目は「豆の兵隊さん」といふので、斯道に造詣深い先生は、幼兒の心理を洞察され、少しの隙もなく流暢に面白く話されました。

休憩三十分後、同幼兒に貼紙をさせられました之は製作活動として、大した意味もない様に思はれましたが、結果そのものが、活動性を帶び、玩具として、研究資料として、實に價值のあるものでした。其後約一時間に亘つてお話の仕方について講演されました。

午後は愛知縣兒童研究所丸山主事の、メンタルテストについて熱心な、講義がありました。

翌四日年長兒二十七名に、蛇を愛して恩に酬ひ

られたといふ、動物愛憐の徳目をもつた長い／＼お話をせられた、後リノリウム彫刻遊びをさせて下さいました、午後は丸山先生の續講で四時終了しましたが、兩日に於て益すること多大でありました。

五日この日大會に先つて、本年度の縣保育總會が開かれました、會長の挨拶、事務報告役員補缺選舉等があり、直に大會に移りました。本會の協議題として提出されてゐた、「觀察の施設方案如何」に對して、名古屋市保育會及丹羽郡犬山幼稚園より、それ／＼發表があり、その結果細案などは、改めて研究することになりました。

午前十時半より、東京女子高等師範學校教授倉橋惣三先生の、「新幼稚園令について」蘊蓄なる御講演がありました。

その内容の重なるものは

1, 幼稚園の獨立

2, 保姆の資格待遇の向上

3, 現代社會に適應したる内容の改善

以上の外幼稚園が、社會的職能に傾注して來た事や又、保育の目的及保育事項について保姆の蒙を啓かれ、僅か二時間餘に深遠なる御講演を承つた事に、一同ふかく感謝いたしましたのであります。午後は各國有志の感想談や、研究發表の有益なものがあつた、三時閉會いたしました。

愛知縣保育會

蟲 おひ

よ し こ

折から咲き亂れて居る萩の根もと深く這ひこむ三四人。「それ、そこに」「ほら、つかまつた」「あつ、とんじまつた」とよろこびの聲、惜しむ心とり／＼に興する蟲おひのひととき。

いつの時でも、雜草にまづしい幼稚園の庭から

こゝ本校のひろくした青草の庭に来るのを何よりのよろこびとして居る。大きな蝗一つ、とらへられじとバツと大きくとべば、大人まで幼き人々と共に追ふて行く、ソーツとくと云へば七八人の子がこゝろもち前かぐみにぬき足さし足して又も追ひ行く。

漸くにしてとり得たこほろぎを、玉むしを、てんとむしを、ばつたを、持つて來た古狀袋に大切にしまひ込む。蟲もかわいそうぢやないかとふと

氣はついたが、日ならずしてやがて露のいのち消えゆく果敢なき蟲のさだめ、この、いつはりなき幼きものにかくも愛せらるゝは悲しみの中のよろこびともいへよう。さうだ、心ゆくばかり秋を楽しみて居よ、とはるかによき音をよろこぶは、大人の心もち、何事もわれに結びつけねばおかぬ幼きものには我がものとせではやまぬも、愛なればこそ、いとほしめばこそ、ではあるまいか。



告 稟

一、幼稚園及び小學校、家庭、育兒、看護等に關する論說
調査研究等の寄稿を歡迎いたします。
一、寄稿は一行二十六字詰に記して下さい。但改行は一字
下げる。また句讀點は一字あけること。
一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新
刊書、交換雜誌、入會手續、更に
本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切
左記編輯兼發行所宛に願ひます。

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

一、本誌購讀御希望の方は日本幼稚園協會に御加入下さい
居所、氏名を明記し會費前金にて東京女子高等師範學校
附屬幼稚園内日本幼稚園協會に御申込下さい。
一、日本幼稚園協會會員外にて本誌御注文の方は凡て前金
（郵便共）で願ひます。（郵券代用の場合には總て一割増）
一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七
二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特
に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
一、會費切又は前金切の際にはその最終送金の雜誌の封
に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御
送金を願ひます。
一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひ
ます。

定 價

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料貳錢
半々年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年拾貳冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵便は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

大正十五年十月十日 印刷
大正十五年十月十五日發行

幼兒の教育 第二十六卷 第十號

不 許 複 製
禁 轉 載

編輯兼發行所 堀 七 藏
東京府豐多摩郡戸塚町大字戸塚五七五

印刷者 大杉 直次郎
東京市牛込區山吹町一九八
印刷所 大杉 印刷所

發行所 日本幼稚園協會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
振替口座東京一七二六六番

廣 告

特等面一頁 金參拾圓 二等面一頁 金貳拾圓
一等面一頁 金貳拾五圓 一頁以下御斷
神戶廣南甲賀町八品田真公に御申込下さい

電話 牛込一九一六番
振替東京一五〇九四番

冊一全版六四
錢拾五圓一價定
錢二十料送

澤柳政太郎	東京女高師教授	文學博士
福士末之助	文部省囑托	
倉橋惣三		

第三節	試驗檢定
第六章	園長及保姆の進退
第一節	總務及服務其他
第二節	園長及保姆の進退
第三節	園長及保姆の職務及服務
目白幼稚園	和

田

寶

發行所

所取次

(幼稚園に恵まれた童謡)

久門嘉祐作歌並戯曲

堀田 義 正作曲

堀田 影子 琴曲

新 童 謡

第一集

(附、童謡遊戯)

著者は久門先生であります。多年

東洋幼稚園牛込分園長として又童謡研究会主幹として同時に男の保姆として親しく幼児の實生活に浸つても來た賜物として茲に此の新童謡が生れ出たのであります。

先生曰く子供が生れて其第一撃「オンギヤアン」は謠である、それから謠に寢謠に機嫌を直し謠に遊ぶ童謡は所詮幼児の生活であると、眞に是れ幼稚園の眞の童謡!!

定價は僅に七十銭にて販賣致します。(第二集續いて出版す)



所 行 發



町谷ヶ指区川石小京東

株式會社

ベールフ

電話 〇三六川石小
〇四六九一京東替振

